

昭和三十一年三月十八日招集(第六号)
第一回市議會定例会々議錄

館山市議會第一回定例会之議錄(第六号)

昭和三十九年三月招集

三月十八日(水曜日)

一 議事日程(第六号)

議案第五号

昭和三十九年度館山市一般會計予算

議案第六号

同

公益實屋特別會計予算

議案第七号

同

国民健康保険特別會計予算

第二 議案第八号

同

畜場特別會計予算

議案第九号

同

簡易水道特別會計予算

議案第十号

同

休養施設特別會計予算

議案第十一号

同

館山子スホスル特別會計予算

議案第十二号

同

上水道特別會計予算

午前十時三十分 開議

・議長(黒川佐太郎君)本日出席議員数 二十九名

こいより第一回市議会定例会第六日會議を閉会いたします。
本日會議事はお手元に配付の日程表により行ないます。

日^程第一議案第五号乃至第十二号昭和三十九年度一般会計
並びに特別会計予算案を一括して議題といたします。

おはかりいたします。ただ今議題と取りまいた議案中、第
五号議案の一般会計予算を歳出と歳入に分けます。
歳出は部より質疑を行ない、次に歳入の部、特別会計は
各会計ごとに上程という審議の方法といたしたいと思います。
こいより異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

・議長(黒川佐太郎君)此異議なしと認めます。よって決まりました。
こいより議案第五号一般会計予算案の歳出の部より

質疑を行ないます。

なお、発言の折はページをお示し下さるようお願いいたします。
・二天番（角武夫君）歳出全般に關すること、ページは申し上げませんが、自治法の改正によりまして、歳出の各項目についてこれに見合う財源の種類を明示することになりまして、これは我々にとつて非常に参考になり、また、ことだと思ひます。つまり、これは特定財源について少くも伺ひたいと思ひます。

競輪収入は特定財源、その他に入っているかということと、それから地方債でございますが、予算書によりますと、第四款衛生費で二百万、六款農林水産費で三百万、土水費で六百万、消防費二百万、教育費二千二百万、合計三千五百万市債を認めておるわけでございます。

予算上程において、この地方債がどう支出に使われるかとい

うことの中、説明がないように存しておきますので、この点、各所管課長の説明をお願いしたいと思います。

・総務課長（山口実君）ただいま、特定財源でございますが、一に私ども考えております特定財源は、歳出に対して特定支出目的の明らかな財源を特定財源と申しております。競輪収入は一般財源でございます。市債は特定財源といひまゝして各款のそれぞれ事業に……

・一六番（菊武夫君）それでは、具体的にお伺ひいたします。五四ページ第二目、トシ、芥川理費に二百万円の地方債といは、何の目的で発行いたうてございますか。

・総務課長（山口実君）十八節、備品購入費、二百六十五万九千円、自動車ですわ。

それらを一応事業目標として、こゝろの財源を二百万円。

・一六番(関武夫君)六七ページの第四頁漁港建設費三百
万円、市債、これは何に該当するものでするか。

・総務課長(山口実君)これは十九節負担金の三百六十万
起債につきまゝでは、予算書の一五ページ第三表に

・一六番(関武夫君)了解いたしました。

・三番(小柴孝君)七七ページ都市計画税の運用に關して
一つお伺いいたします。

実は農村地帯において都市計画税は、どういう方面
に使われておるかという問題に關しまして相当質問を
受けるわけでございます。この表にもありますように旧
大カ村関係でも百五十万程度の都市計画税を出して
おるわけでございますが、これは實際面につきまゝで年間
を通つてどういふ方面に使つておるかということをお示し
願いたい。特にこの問題は昨年あたりから相当關心

を持つてきております。なお本年度は、昨年の二倍と
いうことになっておりますので、この点の説明をお願いい
たいと思います。

・建設課長(新井重助君)都市計画税の使用方法でござ
います。都市計画税につきまゝては、人口の稠密す
るところを第一点として考えていかなければならぬとい
うことで、市内を優先的に取り扱っていくのが建前に
なっております。市街地や下水道等に使っておりますが、
本年度は特に都市計画税の値上げをいたしまして
昨年度より大分宮前橋がございます。

これは三百十万余けまして、一応旧村の方でもやっていき
たいというふうに思っております。その他につきまゝては、
都市計画税を使うような事業を行なっております。そ
で一般土木費の方から橋や河川その他で補つていき

たい。特に三十九年度は、資材費におきまして本年度より百七十万増額して十分それによってカバーしていきたいかように考えます。

・三番(小柴孝君)ただ今うち説明で都市計画税の本旨から重点的に使用になる。結構でございます。

特に私重なお願ひいたいたいんですが、都市計画税そのものに対する問題よりも今市当局うお骨折りで各農村地帯にも砂利等が相当参っておりますが、砂利を敷いていただくには、朝早く人夫を渡川のもとにひいて人夫がこななければ、砂利がもらえないという現状ですが、この点に本当に地区民の要望ですが、砂利を敷くのは我々が敷くから、砂利上げの人夫は市の方でやってもらいたいという要望がございますが、この点に關しては説明を願います。

・建設課長(新井重助君)おおせの通り、そういうような話は、

ぼつぼつ耳にしております。

ために人員を相当ふやまして、承知の通り直営の人数が集まらない。そのために地元の方から現状においてどうにもいたう方がないで、迷惑をかけておりますが、今後そういう話が出て参りまいらうで、逐次そういう方面に改良していきたい。かように考えます。

三番（小柴孝君）でござることはもう、町の方では上げにくる人夫はなくても敷いてくゆる。なぜ、農村の奥の方から上げにくいわけはないのか。こういうわけがある。事実そういうふうになっておるわけでございますが、建設課長（新井重助君）市内におきまして一部分、やはり労力の提供をいただいておりますが、私も、私どもも不公平な取り扱いはいいたくないという考えでございます。何といたしましても労力がないということとで問題になって

おるわけで、勞力の提供をいただいてやつておるという現況で
ございます。で、勞力の十分間に合いますまで、かように考
えておりますが、市長さんの人事に対する配慮もござい
ますので、若干せうを如えまして、軽減していききたい。か
ように考えます。

八番(望月照正君)六八ページ十九節、海田市市長施政方針
の中に産業の振興という面で我々満足いくような成果
現があつたうでございしますが、その中で商工業部庁は商
工会議所を中心とした施策を取つていきたい。

非常に結構だと思ひます。ところで、三十八年度う合議
所の助成金が九十万計上されておつたうでございしますが、本
年度は八十万に減額されておるうでございします。こゝは
どううなわけで減額されておるうか、お聞きいたします。
もう一つは、十三節商工業の委託料、こゝにいたしまして

も諸般の情勢判断の上に立ちますと、わずかに五万円
値上げになっておりますが、金額は五万円値上げですが
商工祭ということを考えますと、あえて値上げではな
い。ません。もう少し上げて他の方面から、繰り入れを考慮
していただきたいと思っておりますが、その点、お伺いいたします。
・商工生産課長（長谷川広治君） 会議所、助成金の関係でござ
います。が、昨年より若干減っております。

これは会議所側と三十九年度の事業計画等を話し合
い、まして大休事業費の半額程度と市の方で負担する
というところで八十万ということに計上したわけでござい
ますが、会議所の特別会計として小規模事業の補助金
が今まで五十万円でありましたが、この費用が若干普
通の会議所の助成と申しますか、予算から支出さ
せておき、それで、そういうものを取捨選択いたしまして八十万円

こういうことになりたい。

それから、商工興祭が五千万につきまゝでは、現在ところ、細部が確定しておられませんので、大体昨年度の実績をおさえて計上いたりたいかとございます。

八番(望月照正君) わかりました。何とかできまゝなら、補助金という名目でふやしていただきたい。商工興祭の内容が決まれば、足次方再度考慮してくるといふうに解釈してよろしいかとございますか。

商工水産課長(長谷川広治君) 大綱としては、昨年度の事業をということで計画いたしますが、物価等、値上りが著しくあつた、それだけ、詰合つて適当に処置していきたいといふように考えております。

二五番(萩生田孝郎君) 予算書が一四頁、小學校費についてお伺いしたいのでございます。

三十九年度四十年度に継続事業費として神戸小学校が三千二百六十三万円で改築が行なわれる。この計画は結構だと思います。ただお伺いしたいことは第一にこの学校、それも全部危険校舎とみなされておられるかどうかということが一つ、第二の問題は市内二十数校のうち、中学校がありますが、危険度の度合と申しますか、ライトの関係ですけれども、これが他う危険校舎に比較して特に重かったか、これが第二点。

第三点は、こうして緊迫した市の予算を大幅に投入する校舎改築新築のために、この方針は可否は別として現実に行なわれている。今後当局におきましては、一校重点主義で危険校舎の指定されておる学校を完全に建て直す。次に一校乃至二校の重点主義でいくらか、それとも危険度合に応じて危険度の高いところから

改修を行なっているのか。これを見ますと、重点主義で改築が行なわれるように拝見する。であります。この三点についてや答弁を願いたいと思います。

。教育長（工藤和平君）お答えいたします。第一点は神戸小学校の不備格は全部の棟に及んでおるかというや質問のようでございますが、全部ではございませんが、不備格校舎を持つ学校の建物を見渡して最も多く持っている学校であるということ。それから第二点にも、当りますが、従って危険度も最も高いということ。そういうことで序列を突は計画してございます。

これは重点的であるかというや質問でございますが、その通りでございます。ただその仕事だけやると、ほかにやりたい仕事もございます。で、危険校舎解消は一校乃至二校に対する重点主義は、その通りであります。それと併行して

若干の營繕工事を行ないたいという希望を持っております。そうう観点でくらひ合わせて、単なる重点ではないといふようぢや持てございます。

・二五番(荻生田二郎君)ただいまの教育長さんの答弁は、ていさいういおなりの答弁であります。私が私といわんと欲するところは、いやーくも義務教育の施設でございます。から、少くとも子供に災害があつては、いけないといふことをまず、考えなければならぬ。その場合に全部が危険校舎ではないけれども、まず、重点主義として、こつた膨大な三千二百万、一かも全部公費を持って建築するそのことは悪くない。一かー、まだまだ、危険度の高い校舎が、あつてではないですか。そういうものを棚上げして重点主義として、全額公費を持ってこういうものとやまといふことが、納得できないのであります。やまことは

いいんですけれども、まだまだ緊要急に処理すべきところがある。これははつきりと申していただきたい。

おなたの答弁は間違ひである。もう一回答弁願います。

・教育長(工藤和平君) 神戸小學校の危険校舎は三棟ございまして、これは教の上でも一番多い。また危険度も点数からいって高いところに位置しております。ほかに危険度の高いところを棚上げしてということですが、危険度と申しましても、今直ちにこれを改築しなければ人命に及ぶような問題だとは解釈しております。その点申すならば、神戸小が一番先にやまうべきだと考えております。こうして棚上げするだけでは、なぐして場合によつては小破修理で急場しのぎというふうになるでございましょうけれども、これは予算上の関係でそうせざるを得ないわけでございます。

我々どいたーまーではもちろん子供や人命に关する
ようなものに対しては第一に配慮すべき問題でありま
ーてこゝと**関連**して**不適格校舎**の中にも早く手を
付けなければならぬ問題もあろうかと思ひますがこゝ
らに关しまーでは**隔日**答弁いたーまーたように計画
の手直しによつてそゝ緊急度に応じて**序列**をきめ
たい。こういう考えでござひます。

重ねて申しますが、他やものは棚上げというふうな気持では
ござひません。

・二五番(萩生田七郎君)一応了解いたーますが、どうか義務
教育に关する機会均等の立場から公平に緊急度
の高いところから**重点主義**としてやってもらいたいといふ
ことを希望いたーます。

・一〇番(廿田実君)人件費全体の問題についてお伺ひいたし

ます。まず最初に給与でございますけれども、支給
の議会におきまして給料表の改定がなされたわけで、その
ときは主として給料表の改定に伴いまして、ベース、アップ
という形がでたわけでございます。

この面において、実際に支給する場合に今う等級と
号俸に基づいてそのまま支給しているか、その中において、
今回は是正をするのか、ないのか、ということでございます。
すなわち、五等級の場合ですと、昇給額が四百円、
四等級においては、千円から三等級においては、千五百円、
二等級においては、二千五百円、一等級においては、千五百円
という差をもって昇給する額があるわけでございます。
けれども、この格差がかなり多く出ております。従いま
して、現在、取員の給与の等級並びに号俸に合わ
して施行していきますと、一年乃至二年先につきましては

非常に大きな格差、矛盾が現われているのではないかと。そのことは、せっかく事務改善をした中において、取戻す勤労意欲にマイナスになる危険がある中で、これについてどういうふうに支給するか、お伺いしたいわけでございます。もう一つ、超過勤務手当でございますが、先ほど決算委員会におきまして、これから十分条例通りにやっていきたいということをおっしゃって、おたわけでございますけれども、給与条例の第十四条に明確に書いてあるわけでございます。この条例について、今年には施行していくのか。今度の条例改正というものは、超過勤務手当について、なされておられませんけれども、給与条例第十四条に基づいて、超過勤務手当六百七十三万円の範囲内でもってやっていくことができませんか、どうかということについて、

第二点にお伺いたい。

この点は、過日の市長の説明の中で事務改善において相当の労力が余るやうで超額勤務というものをあまりやらないでいゝやうかどうか、この点と。

第三点に事務改善に伴ひまして、各部課の変更をいたしたわけでございますけれども、館山市の取員の身分につきまゝでは、格づけについて特にその基準が明確になつておらないわけでございますけれども、この事務改善につきまゝ主任係長というような面において大幅な増減定数や増減が出てくるか、出てこないか、この点についてお伺ひたいと思つておられます。

・秘書課長（小倉澄男君）お答えいたします。第一点のペース改定はどのようなことかということは、条例審議をお願ひいたしましたときにお答えいたしました通り、国家公務員の給料表と館山市の給料表の間差額を一定にしており、

ますのでそのままの形で昨年の九月三十一日現在より給与を
持ちましてそのまま移行いたしました。

それからただいま市指摘がありました格差でございますが
右い話でございますが昔より給与体系は昇給差額と
いうものが大体一定しておりますので、除々にその傾向
がいわゆる取能給的な体系をおびて参りまして、現在
に至っては特にその取務の取責に依りまして、いわゆる等
級が上るにつれて間差額が高くなつておるという現状で
ございまして、館山市も莫く地方課、行政官庁の指導
にもありますので、その意を体しまして、そういう方向がずっと
考えまして、現在国家公務員の給料表を取つておるわけで
ございますが、その結果、ただ今市指摘のありました通り
に昇給の間差というものは除々に上つてきております。
これはある程度の能率給、取務給を認めたとすることに

よりまして、この給料表を採用いたした次でございす。
次の問題にも関連して参りますが、そのかわり非常に昇
給の間差額というものが一等級には十八号まで、五等
級には十七号までというふうな各号給がございすがあ
る程度中間方面の方に参りますと格差額がダウン
して参りますという傾向はすなわち有能な人はどんどん
すぐに等級が上って参って、さういふ体系で頭を獲得で
きるということになって参ります。

昔々ような格差額がかわらない等級表でございす。
現在が我々の悩みも解消するやうでございす。現在が
段階においては、各等級に頭打ちが出てくるという問題
が出て参りました。なまじくならば、何らかの形におきま
して、その上の等級に昇格してあげたいという意向で
昨年の五月でございす。人事異動の際に主査制

度というものを設置いたしまして、これは係長と同格
三等級という緩和策を講じております。今後とも
そういう形におきまして講じていきたいと考えております。
次に超過勤務手当でございますが、これもたびたび、
中指摘いただきまして、私どもも鋭意研究中でござ
いますし、新年度からは、ぜひ、このような方針で実
施していきたいと思っております。

しかし、支給方法についても条例通りやった場合には、
やはり非常に個人的な不満がよくやれば、それに対して
反対の非常に大きな不満があるというところでござい
ますので、その点につきましては、取員組合等を通じま
取員全体の意向も最大公約数が得らるるような
方法を持ちまして、これに対して善処していきたいと考
えております。

それから、事務改善の格づけの面でございますが、改善に
よりまして、係長の数が五つ位減っております。――
これも、課長補佐の数がいわゆる二等級の数がふえてお
るこれが現実でございますが、そういうことから現在の
市役所内の取務に対する取員の不平というものはある
程度、解消さるるのではないかと考えております。

なお、それに付け加えまして、事務改善によりまして、取責に
対する今までの概念が大へんかわって参りまして、そ
の点を考慮いたしまして、役づきやあり方という点につい
ても今後、研究課題にして参りたいと考えております。
○一〇番(廿田実君)超勤手当につきましては、市条例通りに
施行するという方向に行こうということでございますから、
この点については、結構だと思えます。答弁の中にある
「た個人的にいろいろ問題が出る場合がある。」

従つて一律にはいかないというふうなことを言われまいが、
 こゝは、基準通りに払うと相当の額になるので、昼間は
 仕事をしないで仕事をあまらせて超勤でかせぐというよう
 な不心得も中には出てくるやうでということをおいておまか
 と思ひますが、そゝ意につきまゝでそういう例外をもつて
 金般的な条例の施行という面に大きな変動を来
 ますことについては私は遺憾であると思つたわけですが、
 私は各課において管理取があるわけでございますから、
 それについて十分管理の面で適用して行くことによつてこゝ
 うも、はあてこなひと思ひます。十分実施の面につ
 いてやっていたきたいということも要望するわけでは
 給料表につきまゝでは、適用についてはわかっているわ
 けでございます。こゝまゝ切りかえるということもわかっ
 ておりますが、是正と昇格の問題についてやはり問題

があるのではないかというふうに思うわけでございます。

給料条例の六条におきまして初任給並びに昇格という面について規定されておるわけでございます。特に昇給昇格基準の中におきましては、四条におきまして二年以上、その給にあるもうが、必要な資格を取った場合に昇格させることができるということにあるわけです。

従いましてこの中には二年以上の場合によつては優秀な場合には、これを短縮してもいい五条において、そのような例外がある。そうなりますと、さらにここで問題になつてきますのは、これが予算の範囲内においてせまなければならないという点である。そうすると私は二年たちますると自動的に予算の許す場合に等級が昇格さへるものと、予算がないために三年たつても四年たつても勤務成績良好だけでは昇格できない人が相当ある。

ではないが、二年で昇格するものと一年で昇格する
ものが出て参りますと、若俸格差によりますと、五等
級でもって四、五年ストップをくっておつたものと、二年間
で四等級に達したものについて一年においてもすでに
六百月の格差が出てくる。五年たちますと、三千月の格
差が出てきて、こういう面で顕著に現れておるのではな
いか。この中で今、条例でいくと必要な資格というのは、
何^さざしてゐるか。この点についてどこで定めるか。

國家公務員の場合にはきちんと文章化されたものがあるわけでございますが、市にはそういうものが無いのであり
まして、その面はどのように処理されておるか。伺わせいと
せつかくこのように給料表の改定をしてもますますそう
いう面が出てくることになりまして、せつかくの趣旨がめち
めちになつてしまふ。

この資格成績良好という認定についてもう少々詳しく
く教えてもらわないと現在で取資の給料表を見ますと
この面がアンバランスがあまりにひどい。

なお四月一日ですが、一ヶ月アップということになれば、二ヶ月
は格差が非常に出てきてしまうということについて、是正
する意思があるのか。現在で格差に対するとこ
ろで、是正はこう予算の中に組まれているのか、あるいは
か、その点について伺いたいと思います。

秘書課長(小倉澄男君)お答えいたします。第一点で昇給
昇格の規則の問題でございますが、必要な二年以上とい
う点でございますが、現在のところ、三年を経過したものは
昇格試験を実施しております。それによって試験をパス
したものは昇格をするという制度でございます。

ただ今まで問題点といつて、取務の取種にすぎまして、等

級別・職務・級別定数というものを取っており、また関係上、予算がたいへん昇格できないのだということよりポストがたいへん昇格できないのだという現状が多かったようでご座います。一カー・それも主査・製制度を採用いたし、また結果ある程度緩和されたということに考えてあります。

昇格の特例でございしますが、これはあくまでも上司の決定でございまして、本人の勤務成績が優秀であるという場合には、上司の決定によつて昇格させております。

ただ今申さしめた国家公務員のような基準・実施細則というものは、館山市には現在うところございせん。一カー・一応国家公務員の実施細則等を参考にいたしまして、それに準拠いたしまして実施いたしておる次第でございます。

それから四月一日の一号アップに関係することでございますが、これは取員一同多年の念願でございますので、この際一号アップをいたしまして、実はただ今、中指摘のありまゝに通り給与体系につきまゝていろいろな不満といえは不満、いろいろなことがあるのであります。これはなかなか大きな問題でございます。予算も非常にわかるというふうなこともあります。予算がというよりも、その雇用の条件とか、本人が就取った当時の状況、さらに十年前に優秀な成績であつたために二号俸昇給させたとか、ある程度が悪いところがあつたために昇給が停止された、そういう人事記録上にもありますものを、精細に検討した結果でないと一概に本人の給料が悪いのだということも断定できませんので、この点に關しましては、事務改善が軌道にくりまゐった時には、人事係が係長以下二名でや

っておりますので、現在のところ不可能である。今後増員を見込みまゝしていろいろ調査等を開始したい。こういう気持ちでございます。

一〇番(井田実君)特別委員会もあることでございますので十分審議していただきたいと思ふんですが、次の点については、ここでもってお伺いしておきたいわけでございます。

昇給試験をやっておるといふことを言われまゝたが、この点については毎年実施してあるのか、さらに良好という認定をどこで下してもらつて、どういう人たちにやるかという点についてお伺いしたい。

もう一つはポストの面において人員がないということでございますけれども、等級にすぎるところで予算的な制限はあるにしても、一等級は何人、二等級は何人、一等級に對するところの取務級によるところの定数というものは

全然ございません。

任務と内容については、書いてございますけれども、こういう定数のポストがない中でもってどうように是正—たかという
ことについて私は、お伺い—なければならぬと思うわけですが、さらに事務改善に伴い、まして係が減ることによって係長とか主任というものが多くいるために、現在、市役所の機構の中で、能力があっても抜てきできない。

昇格はできないというふうなことで、昇格ができないために、年々四等級に甘んじて年々千円が平均—で昇給。

うまくやっておけるのに試験制度ということがあるところでござい
ますが、—カー—そこにきちんとした規則がないために、そういう面をはっきりさせていきたいと思います。思うわけでございます。
あとは特別委員会の方で審議—してもらおうということでお
打ち切ります。三三三だけ、答弁いただきます。と思ひます。

。秘書課長（小倉澄男君）試験制度でございますが、これは毎年やっております。一カー今年のみは非常に此一カーだったということの実施いたしております。これはお一カリを二つむるかと思いますが。

それから等級でございますが、館山市の庶務規程に各課の中にこの一カー係を置くということが規定されて係長を置くということになっておりますが、それに一カーで、三等級も一カーが決定するわけでございます。

それから、新人の抜てきということに関連することでございますが、特に市長も有能なものは抜てき一ていかなければならないということでございます。そういうふうな方針でやっております。

なお、例外の昇格でございますが、あくまでも市長の権限より実施いたします。

二三番(中村省吾君)関係ですが、ただいま、村田議員の方から
いろいろ質問があったわけですが、その中で不明確な問題
があるので、聞きたいんですが、試験制度によって、昇格という
ことを申しました。

試験制度を何によって実施されておるかという点でございます。
それから、取扱いの現状、給料を見た場合に勤続年数に
よる矛盾ができておるということをいつておるだろうと思つて
わけです。それに対する秘書課長、答弁は、今、勤続年
数による矛盾というものを解決する一つ、方向づけとい
う答弁はなさっていない。要約すれば、村田議員の質問
もそういうことになろうかと思つておられます。従つて、こ
れに対して、今後の方針としてどうように是正していく
かということが答弁されていないと思つてわけです。
重ねて私の方からそういう質問を申し上げたい。

もう一点といひまして、初任給の格づけにつきまゝでは、
 國家公務員の細則等を準用して行なつていくという
 中答弁があつた。少くもこの給料表というものを
 改善、実施していくという中で、その一番起点となさるべき、初
 任給を格づけする際において、その細則がないといふことは
 おかしい。これは當然、細則を設けて國家公務員の基準
 に準拠した初任給の格づけというもうきなすべからう
 と思ふわけだ。

そういうことがせぬないことが一つには、取員制の勤勞意
 欲を阻害するといふ点にもなつてゐるだろうと思ふわけで
 あります。いま一点、前連して申し上げます。

取員は勤勞意欲といふ面では課長や今までの答弁の中
 で端的には各機構の中で總務には係長何名とか、そう
 いふ基準があつて、役割の定數制的なものがあつて、それによつて

あるやうだということを書いた。これは当然かもしれない。

「が」現状においてある課に役づけが多過ぎるではないか。ある課には、少ないのではないか。そういう中で役づけが少ない課にあるがためにいつまでたっても役づけにやらない。従つて昇格できない。たまに役づけが多いいところについておるから早く昇格しておるという点も出ておると思つたわけだ。

こういう点に就いて当然人事異動とかいろいろ考へて、こういう面の矛盾を排除していかるべきではないだろうか。このことが取員一体として勤労意欲を上げることになるのではないか。こういうことでございます。こういう点につきましてや答弁願います。

・秘書課長（小倉登男君）試験制度というものは、何によつて実施されたかという点も質問でございますが、昇格と関係いたしますが、係長、そういうような数が決定いたしておりましたために

うしても昇格の規制が生じたということでは試験制度を
実施すまともにとらうに本人の希望する勤務状況
本人の取能というものを検査すまともという意向もありま
す。又今まで昇格試験を実施してあります。

・二三番(中村省吾君)もう一回いつていたきたい。

・秘書課長(小倉澄男君)主事試験と申しております。主事の
定数にそうために競争があるわけでございます。それを選
考すまための試験でございます。

絶対数が少ないからという……

・二三番(中村省吾君)その試験制度でございますけれども、
おっしゃられた今のお答えは、主事に限った場合のことでは
先ほどう答弁の中では昇格ということでは言われておいて、
そういう違いが出てきたわけです。

主事ということになるとわかる気もするわけです。

「はい、給与条例の中で解釈いたしますと、二年たてば、云々
という言葉があるわけです。昇格についてう、なおかつ、
その問題については制限条例もございます。ございますけれど
ども制限条例にひかかって二年たつてもまだ昇格できな
いというものが若干できるということはわかるわけです、
「はい、それを試験によってどうするということは、私は解
釈できないのではいか。条例によってですから、何を根拠
にして試験をやっておるかということですよ。」

・秘書課長(小倉登男君) 私今まで答弁したときに感傷い
さいたしまして昇格というものはいろいろ場合がござい
まして五等級から四等級に昇格する場合に主事
試験をいたしまして昇格させる。それから主事からい
わゆる係長、四等級から三等級については、これは優考
によりまして係長の定数によってこれを昇格させるとい

う方針、お訂正いたします。

。三番(中村省吾君)わかりました。細かい点は、委員会の中で討議していただくことといたしまして、もう一点、増額してお同
いいたします。

超過勤務の問題で私は本年度非常に増額さして
おるとみたわけです。そういう中で増額された根拠というも
うがばつきりしなくなってきた。そう多いということとは私なりに
従前の誤った方法を是正していくから多いのだ。こう思つて
おったわけですが、聞いてくれますと、そうではないというお返
りもようです。そうしますと超過勤務というものを昨年より
りも大幅にふやしているという根拠をお答え願いたいと
思つたわけですが。

。秘書課長(小倉登男君)と毎年超過勤務の計上額は、本俸プラス
暫定手当の六%を計上いたしておりまして、本年もその方針

にせいまして計上いたしたわけでございますが、これが増加とい
うのはいわゆるベース・アップによりまして統体的に値が上ったに
めう増加でございます。

。三三番(中村省吾君)わかりました。その増点についても細かな点
はうちほどにゆずっていただきますもう一点、勤務意欲の問題で関
連するところでございますけれども、超勤の問題で計出職員の方
からいわゆる「たが」形式で行なった場合には、取員向に
矛盾がでる云々ということも言われたわけでございます。
そうすると、私から言わせれば、そういう矛盾、なおかつ、課長さ
んの方で有能な取員という言葉をとお使いになった。

有能なという言葉はどこから出るかということが問題に
なるわけでございますが、取員が昼間さばって仕事を残し
て超勤をやさぶようなことがあるから問題があるのだという
ことなんです。その点だけならわかる。そこで私は有能な取員

という言葉を使うならばむしろ、そういうことをさせる。管理
理者こそ無能な管理者といたい。そのことをもつて無能
な取員ということはある。管理者が監督しなければなら
ない任務がある。

私に言わせればそういうような形はおそらく起らない。

元来は超勤という状況はやるべき姿ではない。八時間で終
になる当然の姿でございます。どうしてもできないものを超
勤の形でやるわけでございますから、八時間の中で監督の
責任ある管理者こそその点十分考えてほしいというこ
とでございます。以上。

○一番(吉田勇治郎君)二つ、問題に関連いたしまして、例
日時間、都合上、残一時間なのでお尋ねいたします。

まず、商工費の中の観光費でございますが、いろいろ観光
費はうたわいてあります。予算というものは一年を通して

みなくてはならない。その努力が結果というものは、こゝ予算は
いかにかいき目に見てもやらねない。かように私はきううの賛成
から笑傳していい得る。騒げば騒ぐ方のできるだけ予
算を振り向けておるという観点になまかと思つてあります。
まず洲崎周辺々ああいうようなものに対しては、どういう
考えを持っているか、それから、キャンプに対する考え方はどう
思っているか、それから、幼稚園費でございすが、その持ち出
しは約八百万円だ。あと四百万足せば、四百万円足りてもいいと
思います。あと二百万円出せば、四十分一残っている金市の子
供が一人前々人間として依つていけるのではないかということ
を申し上げる。

どうして幼稚園というものをないところに設けられないか。
私は財政上からゆきまゝにむらば明らかでできるといふ
ことを申し上げたいであります。それを今後どういふ

な方法で我々は市民として平等に権利を受けさせようか。幼稚園は各小學校に必置すべきだと考えるのでその点どうかお尋ねいたします。

・観光課長（小沢正治君）洲崎灯台付近の關係でござい
ますが、国定公園区域でございします。關係上、昨年度、果
計画課におきまして、洲崎付近の整備事業計画について
公園事業として取り上げようという、ことがございまして、その際
あそこ、道路の拡張整備、公衆便所の整備、駐車場の
設置というような關係を連絡してお願ひいたわけてござ
います。それが他地域に推行、或いは休暇村や北条海岸に
事業の決定が優先いたしまして、見受けらるゝという形に
なつたわけでございします。で、本年度におきましてさらにそ
ういった關係について取り上げていただくように建設課
ともいろいろ連絡して努力して参りたい。

さらに独自の関係において小型のものについては市独自でもやっていけるうではないかと考えておまうであります。洲崎、道路、駐車場、公衆便所等については現在、こういう段階になっております。

それからキャンプ対策でございますが、これは昨年の実績からいたしましてどうしても飯ごう炊飯とか洗場等の整備がなければ地区を指定しても意味がないということとあまりにキャンプをやるような海岸線が長過ぎるというような関係からいたしましてどうしても徐々に整備していく方がないと考えております。三十九年度におきましてはもう少しです。それから地区につきまして大体六十万を予定しておりますので、この経費の範囲内で一応初年度といえます。では、西岬海岸から船形海岸にかけての間に海岸の実情に応じて実施して参りたい。このよう

に考えております。

・教育長（工藤和平君）幼稚園の志についてお答えいたします。
幼稚園を各地区に必置すべし。こういう考えのようでござ
います。が、報告質問に対して申し上げましたように幼稚園
の教育の機会均等も非常に重要性を持っていますと
いう観点からあらゆる地区に幼稚園を置くことが本
来の方針であり、理想であることは、同感でございます。

ただ、この問題にはきつうに申しましたように設置基準
による施設、設備費、人件費、こういうようなものを
えきすときに、一季に未設置の五つの地区に設けるとい
うことは財政上できないというふうに考えますけれども、し
からば、一つ一つやたらいいではないかという御意見もござい
ます。たので、我々としては、この幼稚園問題につきまして、再
三申し上げますごとく、最も根本的な対策を講ずべ

き時期に到来していると思ひますので、その線に向かつて
その理想が遠からず、実現できるような線に向かつて考
究してみたいと思う次第でございます。

○一番（吉田勇治郎君）観光課長さん、教育長さん、中答
平一応了といえます。

次に神戸小学校の鉄筋化の問題で質問が出ました
が、私も同感で恒久建物にするのは結構だ。議会でも
要望しておるし、ただこれをやる上に他の教育予算を
圧迫していることはないか、これは小学校費についてお尋
ねいたします。

それから以後いかにする学校を解消するに
当つても現在、神戸小学校の改築の線に堅持するとか、
この点を簡単に中答を願いたい。

・教育長（工藤和平君）第一どう鉄筋化といったことによつて

他の教育費を圧迫するのではないか。という片に配うよう
でございますが、これに関しましては、私の方の基本方針
といたしまして、学校建築費の額を一定目安に考え
まして、立派にいたしますので、結果においては、圧迫という
見解も起きましようが、私どもは、他をくらみ合わせる
考えておるわけでございますので、必ずしも圧迫する
とは考えていないわけでございます。

第三点、今後すべて恒久対策を立てるかということ
でございますが、これは、大へんむずかしい問題でござい
まして、大幅な金銭投入でございますから、もう少し研究
をいたしまして、そう都度考えたいと思つたわけでございま
す。そして、現在考えております危険校舎の改築
については、大半木造による改築を考えておるわけで
ございます。

一番(吉田勇治郎君)なかなか問題大きゅうございますが、今、
発言が真実といたしますと、市長さんにお尋ねいたします。
ただ今の点に対する市長さんう見解をお伺いいたします。
市長(本間譲君)今後、学校建築は鉄筋によることが望
ま—いわけでございまして、これには、今年やるべきものを来
年に延ばすとか、いろいろなことがございまして、うけいども
私と—ま—ては、基本的に鉄筋で進めていくべきだとい
うふうに考えております。

二番(吉田勇治郎君)今、教育委員会と最高責任者たる
市長、答弁が若干、違—いたうで、もう一度、同ト質
問を教育長さんをお願いいたします。場合にふつたら、前
言を取り消—していただいても結構でございます。

教育長(工藤和平君)先ほど木浩政策—ということと申—上げ
ま—たが、ま—とまつてるところ、例えば、今、神戸も三棟、

危険授舎があるわけでございすすが、こういうときとまつたと
ころは、やはり、当然鉄筋にすべきという考えは持ってい
るわけでございす。なお、房南中やようむところう一部分
うところは木造でやうむいばならむいと書いていふわけで
ございす。

議長（黒川佐太郎君）暫時休憩いたします。

午前十一時五十九分 休憩

午後一時 七分 再開

議長（黒川佐太郎君）午後の出席議員数、二十六名。
休憩前に引き続き会議を開きます。

一般会計歳出の部、質疑を継続いたします。

一番（吉田勇治郎君）午前中、質疑向申し上げたが、さう

の答弁で市長さんは、今後は鉄筋でやるという中答弁がございまして、教育長さんの中答弁と若干食い違いが、ありますのでお尋ねする次第です。ということは、教育委員会である程度まで、施策の策定は、せりあげばならぬと考えるので、改めて中實向申し上げたいことは、今後、小学校、或いは中学校、こういったようなものを全面改築する場合においては、という方法でやるか、神戸に於いて全部鉄筋化ということが、原則であるか、それとも、財政事情によつてはまた考慮するとか、財政事情ということは、逃げては上だと考えるので、もう一度お尋ねしたいと思つて、教育長（工藤和平君）にお答えいたします。午前中、答弁は、はなはだ、要領を得ませんで、申し分けなかつたんですが、午前中に申し上げたことは、神戸小のようになつた危険校舎の棟が多くある場合には、鉄筋とすべし。ただし、

まゝとてないわすればかり練の改修には木造ということとまゝ一応五カ年計画の中に考へるわけでございます。その後不適格校舎の問題等でございますので、房南中木造ということも申しましたが、これは全く間違ひでございまして、あつたまゝとつた一中、二中も同様でありまして、こういうものは鉄筋にすべきだと考えます。本筋としては、鉄筋化していく。こういう線で進めたいと思ひます。これは今後手直しにおいて十分考えたいと思ひます。

一番(吉田勇治郎君)結構でございます。是非、そのように取りはかろうように希望いたします。

一かゝ教育のある部面を犠牲にするということのないように、なお、いさうや努力を望むものです。

それから幼稚園の問題でございますが、逐年計画をお五

てになつて何とかこの目的を達していただきたい。

それから、学校に建築に當りまして、その計画があつたら、今
△期中にや、回答あらば幸いと存じます。以上申し上げ
て質問を打ち切ります。

○二七番(嶋田繁君) まずオ一に二九ページの市役所の関係で
取算講習、講師謝礼が五万円計上してございます。
これは、どんなものでございませうか。

○秘書課長(小倉澄男君) これは、あくまでも取算の研修のため、
中央とか、各方面から講師を招聘いたしまして、応分の謝
礼を、なとと来ていただけませんので、それに対する謝礼とい
う意味でございします。

○二七番(嶋田繁君) これは、二回位、自分考えを申し上げて質問
しよたら是非、そういたたいというふうな答弁がござ
いまして、重ねてお聞きいたしますが、それは新規採

用者はもちろん若い、これから取り扱う研修、これは必要であるには相違ありませんが、これが出張研修ということになると二、三人だ。従って市内におきまゝで一ツかりした研修会を開いてはどうか。一般的に教養という言葉は当たらないかもしれませんが、市で取組はこういう心がけが必要であるか。というサービスに仕方いいか。基本的なもの全般にわたってよく知らせて研究させてやる。これをやったらどうか。こう私は思います。

一週間に一回位、これを重ねて講師は助役さん或いは、課長さん、そういつた方にやつてもらう。少くするときには、課長さん自身も非常な勉強になる。それから出る方もうちとけて質問もできる。相談もすることができる。第一市内の緊密をまゝやるということからいっても、非常に価値あるものと思います。

従つて二回位にわたつて希望申しておきまいたけれども、果して、それが、今、やっておりますかどうか、伺つてみたいと思ひます。
・秘書課長(小倉登昇君) 三十八年度におきまして、夏頃ですが、青年部が中心になりまして、各市役所内よりあつちの事務につきまゝ担当の係、並びに課長が講師となりまして、市役所内部の事務、研修、それに携わうな人たちに對する説明会を実施して約一カ月位にわたります。四時頃から始めましていつでも、六時から六時半頃まで毎週実施いたしまして。

本年度の計画でございますが、只今より意見、まことにどうもでございますので、今後ますます実施していきたいと思ひます。

・二七番(嶋田繁君) 結構なことでございます。

それから次に八五ページ教育費についてお尋ねいたします。

以前、当市には、指導主事が二人もおつたやでございます。ところが現在、これが市内及び郡部全部を受け持つて、そうして指導に当たつてゐる。こういうわけで市において重点にということば、行かなくなつてゐるやに承つております。それで果して教育内容の充実に支障がないかどうか。教育長は市内の教育をどう導いて、どう指導するか。という確固たる信念があるはずですよ。この信念を各学校に植え付けるには、やはりこういった指導主事というふうなものが必要ではなかつたか。こう私は考えます。

これにつきまして教育長はここに重点をおいた指導主事がなくてもできるというお考えでありますか。そこで私は、指導主事が現在廿一位というならば、せめて館山市に教育研究所というふうなものでも、こゝらえまして、そういう指導主事にかわる優秀な先生を一人か二人、そこに置きま

して十分に研究をさせ、或いは資料をそこに生かさせる。各学校から研究の結果、それらを持ち寄り、そして十分審議して教育の方針までも定めるというように強いものをこしらえてはどうか。そうして内容の充実をどうしてもはかて行かなければならぬかと思ひます。

こういう構想について教育長は、どう考えますか、お伺いしたい。それから、吉田議員さんの質問に房南中学の例がふさわしいかも知れないと答へられた。驚きといった答へがあつた。一部が危険校舎であるから、一部をやりなおすということは、これが可能なことですか、どうですか。

房南中学はけり上げたのが離れて二階作りですから、上にいくに従つて広がっております。

卒業式がありましたが、半沢委員長さんが、列席されて非常な動いて危くてしやうがありませんね。これは、困りまうたね。

こういふような話—までもあったのでございます。

私は請願書でも申し上げました。劍指をやるとつゞ込んでく
仕方がせいから地えで張りかえた。後日改築を—てもらい
たい。そういう希望があるから、少しのところは、地えでやる。
そういうわけで非常に危険がある。

大体が外部ばかりを見て内容というものに果—て教育長
が目を注いでおるか。この間請願書を出—ま—たとき
ほかう議員の方から非常に賛意—う言があったんです
よ。私は地えう議員と—てありがたく思つた。ころまで他う
区域うあを答—さんが配—てく—ておらる。これは何で
ござい—ようか。事実や覽に—な—つて危険さわ—りう
ないものであるから—だ—ろ—うと思ひます。

教育長外觀から見え—ないものに果—て眼光が通—つています。
これは強を書くとき本當の強を書くには写真寫実—というも

うに徹底して写真実を突きつめて初めてそこを処理でき
る。教育長、学校の形、内容というものを、これを写真いたし
まいて、頭にすわり入れて、そしてそれから、本當の生きた計
画というものが生まれてくるわけです。教育長はそこで、
いつておきますか。私はいつておらぬと思う。従つて計画が支
離滅裂であるということもいいたい。答弁においても、それ
が残つておる。さっきの答弁せんか何ですか。ただ、いいわけの
答弁です。あなたに、つかりと、た教育というものが、こうい
うふうに導きびななければならぬ、突きつめた信念がありま
すかどうか。

館山市の教育の振興のためにはもうサー、教育長は、つ
かり、た徹底したあなただう信念、見識というものを持た
ないでどうしますか。房南中学を例に上げたんですか。
これによろあなたに答弁が、よくものがたつてあります。

以上申し上げてもう、あなたに過ぎない言葉であるという
からおっしゃっていただきたい。これで終りたいと思います。

。教育長（工藤和平君）お答え申します。第一点の指導主事
の問題でございますが、三十九年度当初予算に拘りま
しても教育条件の整備、その中には教育環境ということ
がございますので、そういう種々の仕事として神戸小の鉄筋化
などはじめとして莫大な予算をお願いしてございますけれ
ども、それよりももっと大事なことは、教育内容にあま
しも信じております。

そこで指導主事の質問でございますが、お話をよく
従来指導主事は、館山市には二人ございました。この
二人が何と申しますか、学校に籍を置いて教諭として
実は、市々指導主事の仕事をしておったわけではござい
ます。

これが一面には、現場の教育力をそぐということと法にかなわないということとで、県教育庁、教育委員会、並びに文部省の監査といったようなものが、だいたいおやみくまりでどうしても、置きなかつたわけでございます。

そこで前年市費をもつて一人指導主事を設けて、理想から申しますと、二名はいいであります。一名は文科方面、一名は理科方面、こういうふうな主事がほしいわけでございます。すけれども一人だけをお願いいたしまして、従来やつてきたわけでございます。その間の実績を申ししますと、市の指導主事というものが、県の指導主事のかわりに、エイトが高いわけでございます。従いまして、県の指導主事のようにはいかないという悩みがございます。そして、その県の指導主事がいいては、ないか、これは大へんむづかしいものであります。人方手を尽

くしまーで、渠の指導主事に切りかえたわけでございます。
 二いもおつゝやる通り、館山市だけ担当すゝわけではござ
 いませんので、一週間のうち、四日は、館山市担当でござい
 ますけれども、館山市だけというわけにはいきませんので、
 そいを補う意味におきまして、小中学校、各教科のバ
 テランと申しますか、比較的優秀なものを教科指導員に
 任命いたしまして、指導主事とならんで、各学校で指導員
 力向上のために実技の指導に当たっておるわけでございます。
 なお、こゝに如うるに、市で指導主事、専任の主事を置か
 ないであります。先ほど申しました関係もございまして、
 可能でございましていた。

そこで三十九年度には先ほどお話をございまして、教育
 研究所を併設しまして、取員の研修、教育資料の
 収集、調査といったようなものを我々非常に熱望いたす

であります。が不幸にして実現いたしませんで、あなたが将来に
こう希望をかけて捨てておるわけではございません。いつ
日にか実現することを念願しております。

第二点の中学校の向題でございますが、これは、先ほど来
申し上げましたように危険校舎の一部でありますけれども
ほかの部分が、不適格校舎の認定を受けましたので
手なおしの際に全面的にこれを考えて見たいと思ひ
ます。なお信念がないとやないかというお言葉でござい
ますが、私は、私なりにお信念を持って、学校や管理、指導
に当たっているわけでございます。

なお、各学校の巡視に關しても機会あるごとに私はい
つてゐつもりでございます。

・二七番(嶋田繁君)今、や答弁でよくわかりました。あなた
に構えもよくわかりました。今いったように内部まであな

たみずからしつかりと把握してもらいたいということを私は申し上げる。以上です。

七番(田村源治郎君)教育長に聞きたいことであるが、教育長は、房南中学に何回行って調査をしたことがあるんですか。それから、あの学校というものが適格性がないかということはいかなることを意味しているのか。それと、もう一つは、先ほど信念があるといったが、実行力がないのではなにか。現場を歩いてよく見るというような実行力がない。この点はつまり、もういい。

教育長(工藤和平君)不適格校舎というものが定義は、学校の校舎として不適格であるという前提のようによろしく考えます。房南中の例を申し上げますと、まん中に廊下がございまして北と南の方に室がある。一か所その教室が大小まちまちである。従って非常に暗い、いつかおぼろ月教

室という名称をたてまつらうとしたが、とうてい校舎としては耐えられないのだという認定を受けたのであります。従いまして、こゝで解消には、我々、全力を尽くさねばならぬと思ひます。

実行力がないというおーかりを受けました。が、努力して実行に移す考えでございます。

何回いったかというお話でございます。おーたが、数えることができないほど私はいってるつもりでございます。

。一一看（石井正君）ニ、三、お伺いしたいと思ひます。

第一点は、市民館の問題ですが、施政方針演説の中で将来建設すべき、今年には調査費を計上するということですが、はつきりしないので、今、用いたところが、企画費の中に入っているようにあるけれども、この点、もう少し詳細にやり説明願いたい。さらに、その市民館については、体育館関係

と両面の機能を持つ建物ということであるが、その構想についてもうサー説明願いたい。

さらに現在、どのような場所等で多少調査をやつて、いゝように申しますが、そういう点々経過とも示していただきたい。

二点、市内の小中学校の使丁の問題ですが、使丁の給料は一年ごとに昇給してゐるか、さらに関係して給食婦の問題ですが、これらに対してはいかほどか給料をやつてゐるか、なお今度ベースアップにおいて、いゝようなアップの考慮をされてゐるか。

さらに使丁の定数は小中学校で二十一名になっておるが果して二十一名おるのか、それから使丁の異動という面について考慮されることがあるか。

三、先般私は小中学校における運動会の費用に

ついで現在ところ、寄付を持たなければならぬ。

市において、運動会の費用を各学校に組むべきである
という意見を述べたことがあるけれども、昭和三十九年度
の予算の中に何らかう形で、運動会の費用を組んで
おろすかどうか、あつたら市説明願いたい。

次に教科書の問題であるが、ただいま国において無償支
付を一年から三年まで実施しており、県下の中
にも四年から六年までの小学校の義務教育におけ
る教科書を市において無償で支付している市町村
も一、二見えておるのであるけれども、館山市においては
かような考慮をしていないか、あつたら伺いたい。

さらに教員の超勤手当については、予算化されていな
いけれども、これは非常にむずかしい問題であるが、
超勤をやっていないとはいいい切れない。

そこで教員の超勤というものをどうように考えらるか。この点もお伺いしたい。以上。

市長(本間謙君) 市民会館の件ですが、本年度調査をして皆さんとともに決めます。わけでございますが、私は最低二千人以上収容できる。また敷地として、三千坪位を考えておるわけでございますが、そうして市民会館、体育館が両面に使えるようなことが、経済的によろしいんではないかと思っておりますが、本年度はそれらにつきまして調査をして進めるということでございます。調査費は十万円組んであります。

庶務課長(千場伊右エ内君) 小、中学校の使丁の件でございますが、学校管理規則が四月一日から、改正になります。使丁ということではなく、用務員ということになります。その給料は一年ごとに市役所の取員同様

上っております。

それから給食婦の給料でございますが、現在最高が八千八百円、最低が四千二百円という状態でございますが、これも四月一日からベースアップという意味を持ちまして、五日制は千円、三日制は九百円値上げする考えでございます。

使丁の数でございますが、小学校が十四名、そのうち、北条小学校が二名でございます。中学校の方は七名でございます。して、二中が二名でございます。

それから使丁の異動は現在やっております。

運動会の費用でございますが、報償費の中に一応小学校が一萬三千円、中学校が七千円計上してございます。

・教育長(工藤和平君)教育の超過勤務の件でございますが、これは超勤は実質的にはあり得ると私どもの方

では考えます。その財源が莫大であり、むずかしいか
うと思ひます。もちろん、これは集費支弁でございま
して、館山高校は別でございしますが、集が考えまづき
性質のものでもございします。おそらく財源がむづかしい
ために超勤の手当が取れないのではなにかというように
私は解釈しております。

教科書無償の件でございしますが、これは義務教育で
あり、当然やむを得ないが本當でございしよう。おそまきながら
國家がそれに思ひを盡いたして、先年から無償の課
金に至ったわけでございしますけれども、館山市としては、
現在、それにプラスする考えはないわけでもございします。
なお、使丁の異動でございしますが、異動はあり得ると思
ひますけれども、教員の異動とは性格が違ひます
ので、どうしても、事情で異動せねばならぬという

理由が明確にありません。長場合に考えねばならぬと思ひますけれども、現在異動する必要は考えておりません。
。一番（石井正君）市民館の問題ですが、今十万円組まうていふことですが、もうサークワーク説明してもういたいと思います。

給食婦の問題ですが、秘書課長さんにお伺ひします。取名からいきますと、取名の中心に入っていないわけです。これは、今までなかった中で、規則の中心に入っていないと思つたが新しくできたので、取名の中心に当然入るべきではないか。

使つて方は、取名の中心にあるので、一年ずつ給料も上りけれども、これは雇という形になるかと思ひますが、給食が普及してくれば、当然各学校で給食婦を雇つてくるわけですね。臨時ではなくなるわけですが、そういう点から格づけといひますが、規則の中に入れてもいいんではないか。今後考えな

ければならない問題ではないかと思ひますので、その點お伺ひいたします。

運動会の費用は、一万三千円と千円、これは各小中学校に配分するわけですね。大体運動会は約二万から三万かかっているようで、船橋でいたが、去年から、各学校に三万円にばかりかき、運動会の費用としておいてある。

運動会に寄付をもらうということをして、たう矢わけた。私も経験がありますけれども、一般の人が寄付をどうしても痛うなければいけないような学校もありますので、持っていないと運動会を見にいけません。

最近、日曜日にやってもあまり見学者がいません。

それは一つは、つつんで行かないければ見ようがないということがある。つつんでいくと、日曜日であるところに座れるけれども、つつんで行かないと、日曜日に座れない。

こういうことが事実あるわけですが、そこで市として多少なりとも計上していただくことは大へん喜ばしいのでさらに年々これを増額していただくまで、寄付を促すような方途を考えていただきたい。以上。

。企画室長（谷貝茂生君）第一点に対してまいってお答え申し上げます。

実は市民館の件につきましては、今年度は長期計画に主眼を置いて参っておりますので、そこまで考えておりませんので、ただ市長さんの特命事項としてこの調査をせよということでした。今市長さんからも話がございまして、ただ、細かい点につきましては、一応、調査を待つてからということでも、容赦願いたいと思っております。

なお、予算につきましては、旅費のところでは八万円、食料費二十万円、計三十万円がこれに充ててあるわけでござい

ます。

。秘書課長（小倉登男君）給食婦う点についてお答え申し上げます。

はなはだ連絡不十分で申しわけないでございまして、給食婦は、臨時取員だと思ひまゝで、現在、取員には、おありませんが、給食う制度が確立いたしまゝで、正式取員とせるような場合にこそ、どうせたいと考えてます。

。一（石井正君）市民館う方はわかりまゝだが、旅費で八万円、食料費が二万円、ということでは、何にもできないのでは、ないか、もうクー、積極的に調査にかかつて、一日も早く、依つてもうわかれなうない。こゝうように要望するわけですから、それから給食婦が臨時であゝということとは、わかつてあります。が、一日も早く、制度の中に入れて臨時でなく、雇うて、給料も使丁並に上げて、つてももらいたいという要望

をします。以上。

・一五番(小沢恵太郎君)私はきょうの報告質問でお伺いできなかった点をかねてお伺いしたい。

四六ページ保育園の件につきまして、給料として三百七十八万八千円上っております。

一般質問で申し上げました幼児教育の重要性、そういう面においては相当大事な面もあるのではないかと、こう考えるところから果して保育園におけるところの取組問題が妥当であるかどうか、この点について市長さんにお伺いします。

幼稚園の取組や平均給料、保育園の取組や平均給料を見るとずい分差があるように思います。そこで私の希望として、いままでは、保母さんがもう少し、年令的には用執一た保母さんを用いていただきまして、各地区の幼稚園が普及しているまでは、この保育園においてもある程度、見識がある

保育とそう中における教育内容をいんていいたきたい
という考えでございます。

次に六ページ、これは昨日も申し上げました通り農協合併
につきましては時宜を得た措置であると思ひます。

この農協合併について農業協同組合としてどんな点が
よくなるのか、どんな短所があるのか、また合併することによ
つてその裏には短所があるのではないか。これはどんな市
研究をされておるかお伺いしたい。

それからもう一つ組合員はどちらがいいだろうか。どんな世
論になつておるか、これが調査してあつたらう。それも伺いたい。

次に七四ページ道路維持費の原材料費五百六十四万三
千円、或いはこゝほかにも幾分あるかと思ひますが、これを
見ますと、三十七年度は決算とほぼ同額である。決算
のときも、二万を超過してあります。課長さんは今

後道路の維持修繕には充分力を注ぎたいということ
をこうときお伺いしてありますが果してこれでよいだけの材
料が手に入って現在市道にどう位の砂利を入れるこ
とができるか、具体的なやり説明を願いたいと思ひます
私としてはこれでは市道の維持補修が不十分であると
いうふうに考えます。この三点についてお伺ひいたします。
農産統計課長(伊藤幸太郎君)最初に合併の意義の
問題でございますが私も事務局といた一線ではまず
第一点に考えられますことが、市町村と組合、いわゆる行
政区域と組合、区域が一つであることが、農村行政をやら
せやすく上にもいろいろな面でも有利ではないか、簡単に
申しますと、それが一点でございます。

また現在市と農協の規模の問題があるわけでございます
が、これもふけり、町村民と同一のような意味におきまゝして

規模を大きくして大きな仕事をやって参る。その一は義が非常に大きいものではなからうか。

もう一点の世論の調査の問題でございますけれども、現段階といつては、正式の世論調査はやつておりません。

世論調査といつても、やはり各部落とつて或いは地域ごとく相談会方式が一番だと思ひます。いわゆる趣旨の徹底の面でございしますが、現在どうよつて合併がなされるか或いは合併の境にはどうよつた利点に在るか、それについて頃どういふ形が組合が誕生すべきかというふうな基本的な信念というものを目下研究中であります。でありますので推進協議会で一応決定された後におきましてはかつて参りたいということでございます。

建設課長(新井重助君) 道路の維持補修関係でお答え申し

上げます。

原材料の五百六十四万は前年度より百七十万ほどふえておりますが、中承知の通り土地産の砂利もだんだん算が悪くなつてきておりますので、当然ふやさなければならぬといふことに立ち至つております。一かるとあまり効果が上つていないのではないかというお話でございますが、特に本年度は平久里川の砂利と平久里の碎石を主眼として予算を組んだわけでございます。

いづれにしましても、こゝで約六千五千方メートル位一か買えないといふことでございます。これにつきましても、当初の予算の関係上、どう位でいいかという関係もございまして、当然砂利の補修というものは、天氣に非常に影響を及ぼして、天氣が非常に悪いときは、非常に原材料がかかるといふ状況でございますので、三十九年中におき

まして、なほ、降雨が続いて路面が悪化するときには、原材料費を優先的に面拂倒とみるということで、当初予算にこれだけ組んだわけでございます。

・市長（本間譲君）幼稚園と保育園の先生、給料、差の件でございますが、幼稚園の方は学校、先生、教育取のベースです。保育園の方は、一般行政取のベース、こういうことになるから、差があるわけでございます。

・一五番（小沢恵太郎君）ただ今の保育園の問題でございますが、私が申し上げたいのは、安い方がどうかということではなくて、さうにお伺いすると、保育園におけるところ、教育性が大切であるから、この保母さん、並びに園長さんをもっと、たんのうな人材を充てていただきたいという方が幼稚園が普及するまで、願ひ込んでございまして、事務取員の兼務が一週間に何べん保育園に参つて下さるか、私、かぞえてお

りませんが、實際をみると、若い保母さんが任に当たつておる
のであります。が、こゝろをみると、子供を委託しておくこと
が、これで十分だろうか、少いおむげさといへば、危惧の念
にかられるというふうな状況ではないかと思ふ。そういうこと
ろから私は保母さんとしては、月給さやた方を園長とし
ていただく。その下に若い方でも結構です。保育中に
ついて教育性を重視していただく。こういう意味で
賛成する。でございまして、この点についてやつていただく
かどうか、市長さんうも考えを伺いたいと思ふ。もうで
あります。

・市長(本間 謙君) 非常に重要でございまして、今後その
趣旨にそいまして考えていきたいと思ひます。

・議長(黒川 佐太郎君) 暫時休憩いたします。

午後 二時十四分

休憩

午後 二時三十三分

再開

・議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き、会議を開きます。

・二番(君塚喜三君) 二点についてお尋ねいたします。

第一点は五一ページ保健衛生総務費の十四節、十五節を通じて、中實向申し上げたいと思います。

十四節で大葬場敷で道路が私有地を含んでいることを示しているもうひとつ思っています。十五節で工事請負費三十六万が組まっております。

これは水道の施設と付属待合所の新設工事費というふうなことであります。私もこの仕事は大切なことは認めますが、それ以上に道路の拡張、整

備が緊急ではないかと思つたわけであり、特に
雨のとき或いはその直後、市政が貧弱さを見せ
と痛感させられる。これは私だけではないと思つて
あります。大葬場にいくには、仏だけではないで供が
いる。今使われておりますところ、日東、霊柩車、こ
れは一型車といってバスが一番小さい車であります。
その改造車であります。一型車ならば、現状でも
さしつかえありません。ところが、こういふ車は特別注
文である。得がたいような存在であるわけであり、
その二型車さえもほとんどなくなつてきてある。

ほとんどが三型車であるわけであり、一かま
すます大型化しようという情勢にあるわけであり、
三型車による場合は、慈恵院の山内までは入ってき
ます。一かまそれからは入ることができません。歩いてい

くことになるわけです。ところがその路面たるや、どう
 である。喪服を着てあそこを歩くということは、非
 常な困難さを感じるわけであります。

こうした情勢にもかわららず、これが完全に取り組み
 かけていかないうことは、この道路が私有地を含んでおる。
 ここに七千円、借上料が上げられておることは、そのため
 道路の拡張、整備ができないという状況にあるのか。
 その点お伺いいたしたい。なお道路の拡張、整
 備を優先することに振りがえる意思があまりでないか。
 どうか、この点について市長さんや答弁を願いたいと
 思うものであります。

次に七九ページの八款五項四目十四節公園整備費事
 業負担金といううがあります。昨日西村議員さんの
 質問に対する答弁で城山の展望台について果が大

部分負担し市はわずかであるので県が計画もちである
旨述べらるゝた。すなわち建設主導権は県側にある
ことを述べらるゝたわけであります。

ところで来る十三日の私の質問に対する答弁で助役さん
は、三百五十万位といわれまして。市長さんは四百万位とい
われまして、その程度で展望台であり、そのため市は
百万円の予算を計上されたことが各款説明でなさん
たわけであります。従いまして県は二百五十万乃至三百
万円の負担することになるわけであります。そこで不可解な
思ふことは、国定公園事業は原則として国が三分の一、
県が三分の一、市が三分の一というが、その負担割合で
あるはずであります。

もっともこれはあくまでも原則であります。従って県
立公園でない城山になぜ県がそのような負担をしよう

とすまのか、二には何か裏があるように思われてならないのだが、この点いかがでしょうか。

城山は、国定公園指定と同時に某立公園から昇格解除され、国定公園内において特に景勝地としてその風致を維持するため特別地域がなされておると思っております。この点に誤りがあるのか、ただ今の質問に大きな関係を持ちますので、この点も合わせてお答えをいただきたい。

・市長（本間譲君）大華場の道路の件でございしますが、私も十五日位前にいきまゝて道が非常に悪いので、すぐになおすように命じてやっておりますわけですが、今日東の霊柩車でいきますとお話のように、ことに狭い私も実際に経験して参ったわけですが、いまして何とかーないという感を持つたわけですが、いましてその点につきま

ましては、君塚議員さんと同じでございしますが、これから、計画——まして拡張を——して大型も築くようにしたいと思ひます。

城山というお話でございしますが、国定公園に属する公園事業は、都道府県が施行するということがたてまゑになつておるようですが、展望台については、市の方から要望——して是非作ってもらいたいということ、やつたわけとございまして、私が県にいつてきまして、四百万円は大丈夫だということであるわけです。助役の方では削られるから、少なくなるではないかと思つて、二百五十万と申したと思ひますが、三百五十万になるか、四百万になるかわからないのであります。それ以上うことはなひと思ひます。

県がやっておりますから設計等については、市の方、両方から依つて参るということになると思ひます。

。二番（君塚喜三君）火葬場、道路につきまゝでは、大だいいま
市長さんが解決したいということでもございまして、了と
いたします。城みり展望台の件でもございしますが、三百
五万と助役さんがおっしゃり、市長さんは四百万円とおつ
しやうな。それはともかくといたゞまゝで、それを問題に
おるわけではございません。ただ、国定公園事業というも
のは、自然公園法にはつきりとおております。国定公園
事業というものは、これこれ、こういうたものについては、該
するやうなということでも、それより負担、割合というものが、国が
三分の一、県が三分の一、地元市が三分の一出すやうだとい
う原則がございしてゐる。そういうなときに、各款説明に
ありますと、市が百万円、あとは、県が出して、それよりだ
ま、主導権は、県側にあるやうだというやうな答弁がござい
ております。そういうところから見て、予算を出したから

ないときに、果がなぜ、国が三分の一出してくくるとき、果側でかたがわりしてそれだけ出してくくるとき、何かそこに裏があるのトやないかという気がするようです。

私、果立公園でいいという解釈が間違っているならば、ともかくとして、私、調べる範囲においては、先ほど申しなように、解消きいてある。そうして、現在は、特別地域という指定がなされておるといふふうに考えておる。それで、今、うような質問を申し上げるわけなんです。この点について、明確解なま市、回答をいただきたい。

。助役（小出武男君）市長の答弁を繰り返すようですが、自然公園法に基きまして、国定公園内の施設は、都道府県がやる十五条にきめられてある。これによつて、果が施行主体になる。こういうふうに形式的に考えられます。

果がやる場合、負担区分でございしますが、これは三分の

一、この横例がございまして、三分の一を市が負担して三分の二を県が負担する。これは国費の補助は予定しております。

・ニ番（君塚喜三君）研究の上、いづれのと看に於て質問申し上げたいと思ひます。

・八番（望月照正君）五ニページ十九節、郡市医師会付属検査センターの二百万円計上されておりますが、これは福島の請願書のもうだと思ひますが、この負担補助という問題と調べてみますと、これだけ非常に性格がかわつていまして、さうに見受けられますが、こういう性格なんです。

・助役（小太武男君）この負担方法でございしますが、これにつきましては、もうさう内容がはつきりして、市が何かを委託する、という形態になれば委託料という名目で支払うのが妥当ではないかというふうに考へたんですが、現段

隣ではどう面がはつきり出ませんので、一応あり仕事をやる事業に対して一部を負担補助するという形態に現在を考へ方としては、取ったわけでございまして、今後また情勢がかわつてきまうたら、委託料という形態に考えるかもしれないが、一応今の状態にまきまいては、こういう形式で支出したい。こういう考えでございします。

八番(望月照正君)　こゝ点につまみして、こゝ前の紹介議員さんにお尋ねしてみたいと思つてゐるんですが、この負担金の解釈なんです。これは医師の集団的な社会事業というふうな考え方でよろしいんでしようか。助役さん、これをどういうふうに解釈なさつておられますか。

助役(武勇君)　はつきりした性格はむづかしいんですが、内容は先般も紹介議員から説明がございまして、たうに医療センターとして医師の医療機関に当然利用するわけですよ。

が同時にいろいろな公共性を持った部面に比重が多く
なつてきておるといふふうに認定いたしまして市はこのに
對して負担をすゑといふ大になつたわけでございます。
あくまでも医療センターとして市民の福祉に貢献する
ことは間違いないものではいかといふことでございます。

・八番(望月照正君) 助役さん、公共施設と社会事業といふこと
なんですが、社会事業とは解釈できないんですか、公
共施設というものは公共の立場からが管理、運営する
のを公共福祉といふふうに解釈しますけれども。
・助役(小出武男君) 公共事業と私が申しましたら、訂正い
たします。公共的な意味に解釈いたします。

・八番(望月照正君) これは今のような状態からいふのは
自治法にも憲法にもない法律として思つております。
ですから、抵解しないようなやり方をお願いいたします。

それらもう一つこの問題とは違いますが、消防、委託料でございしますが、本年度の予算を見ますと、存目程度に盛らしてあります。これは、どうなわけでございますか。

・消防署長(岩田実君)委託料でございますが、昨年度予算に二十万円計上してございまして、本年度は千円の存目だけとなっております。これは、自警団の成り立ちと、いうことを参考までに申し上げますと、昭和二十九年に消防団が統合した際に、当地の団員、総員は、二千三百八十余名でございまして、これを維持管理はとてい、でございということ、で、五百八十名に減員いたしました。減員する際に統合された方たちを一応自警団という形を残っていたわけでございます。その後、消防署、或いは、消防団も逐次強化されて、車両等につきましても、当時、老朽車両が更新さ

いまして全体的に見まして消防カというものは非常に進展してあるわけでございます。なお昨年の消防団の改変の際に中に地から離れまして豊房の畑であるとか、九重の江甘であるとか、そういった痕隔した地点にあります。自警書団は、これを消防団に編入いたしまして、逐次このらう地区の消防団も強化されるような状況になっております。

そういうような状況でございますので、十年前の自警書団をそのまま進めていくのはどうかというようにも意見も消防委員会等で強く出ております。次でございましてこの際自警書団のあり方について再検討すべきではないかという見解のもとに、本年度は存目程度計上いたしまして、今後再検討をする。そういう意味で存目計上した次でございします。

八番(望月照正君)　さくわかりました。現在残された自警書団
というものは何分困あまるでございすか。それから、確かに
消防カそのものは消防団に比較して対象にむらぬいほど
弱体でございすか、風水害や予防発生のおきには、一所
懸人命に自警書団の方が協カしてやつておるでございす。
そういう面を考えますと、去年までは自警書団のポンプが三
十数台持つておりまして、年額三千万の委託料を払つてお
ったんですが、いろいろ面を考えまして、まだ増額して
やつてもいいんではないか。かように考えるものですが、消
防長や助役さんにも願ひいます。

・消防署長(岩田実君)　自警書団現在、三十団ございす。
この持つております消防機械を申し上げますと、手引ま
たガソリン一台、小型動力ポンプが三台、他う二十六台は
これは腕用ポンプでございす。

自警団の所在については大体五田だけ旧市内、二十五田が旧村と申しますか、そこにございます。

・助役(小出武男君)自警団の問題ですが、署長から申し上げましたように近代消防の感覚から申しまして自警団というものがいい過ぎかもしれません。遺物的なものにかりつつあるという感覚からいろいろ近代化した消防陣営ができれば当然改組というか、廃止う方向にいくべきではないか、こういうことが消防委員会あたりで音で見てまゝとまゝであるわけでごいまして、ただ昔から若い衆が寄り集まり、或いは地域防衛のため団体という流れがありまして、これをなくすということに對してう一抹のさびさを当然考えることと思ひます。

ーかし消防という立場からいけば当然先ほど申しましたような方向にいくのが、妥当でないかという見解を

一応取ったわけでございまして、いろいろ中意見もありません
うで、原案としては、一応そうした廃止の線に考えておつ
たわけでございますが、実際問題において相当な要望があ
った場合には、これは存在することは、事実、市、補助
がむくとも存在しているのではないかと思っていますので、要は
市がこれに対して助成補助する以上は、その線について
ぼったわけでございまして、あう団体、そのものがあつてはいけ
ないということではございません。皆さんが必要であれば、残
してもらうことは一向かまわないのでございしますが、市が助
成してまでやるべきものであるかどうかという、見解にたつた
わけでございます。その点誤解のないようにお願いいたし
ます。

八番(望月照正君) 今までは、自警消防団というものは、消防団に準
ずる規則を持っていたんだろうと思いますが、また消防団

に準ずる行動をしてまた待遇を受けたいと思つておられる。その点どうなんでしょうか。

消防署長(岩田実君) 自警団の性格でございますが、消防組織法から参りまして何ら消防と同様ような取り扱いを受けるということは全然ございません。

消防機関としては消防本部、消防署、及びその関連機関だけでございます。国においても自警団というものは認めておりません。

ですからただ自警団自体が火災現場において負傷し、或いは死した場合でもこれは消防団員として待遇を受けることができません。これは単なる一般協力者として補償を受けるといふ程度に止まるわけでございます。

三二番(三沢節君) ニ三質問いたしたいと思います。

六三ページ負担金補助金として農村青年グループ育成費として六万円計上してございます。ニダ件につきましては、昨日の小沢議員の農村の労働力の老化ということもあげられておるわけでございまして、私といたしましても十年後を見通して参りますと、極めて寒心に耐えないものがあるものでございます。

そういった点から考えますと、ここに結構な予算の計上である。私はうまいと思っております。この内容について中説明願いたいと思います。六四ページに松毛虫対策が上っておりますが、私といたしましては松毛虫よりも、現在一般の被害は、松くい虫にあるのではないかと。この松くい虫の被害が、おそらく館山市全域に及びつつあります。

こういった大きな被害を持つ、松くい虫の対策をやるのではないかと。

第三番目といたローヤーでは一ローページの図書館の修理の請負費に七万八千円計上してございます。私が社会教育委員として図書館などを見まわるときに七万八千円でよい修理ができるかどうか。まことに危険きまる現在の建物でございましていつ二階が落ちるかも知らないというような箇所がうかがわれるのであります。これは執行部にお伺いいたしますが、そういったことを専門家に調査願っているかどうか。七万八千円で果してこの修理ができるかどうか。こういふ点をお伺いいたしたいと思っております。

次に備品購入費に五万五千円、これは図書館でございますが、この購入におきましてどういう方法でこの圖書を決定するのかわかぬ必要が現在どうふうになつておるか。

・農産統計課長(伊藤幸太郎君) 答え申し上げます。最初の青年グループに対しまして助成の肉題でございますが、お

話。よろに農村青年の問題が大きな問題として、巷間い
わけておるわけでございしますが、その対策の一環というべき性
格を持ちまして、青年たちのいろいろなグループがございま
すので、そのグループの方たちに研修会的な場を持ちまして
それに対する若干ではございますけれども、助成を以て参り
たいというような考え方でございします。昨年度におきまして
もグループの方たちが富崎のユース・ホステルにおきまして
この研修会を持ちまして、普及所の取費の講習、その
他関係の座談会というようなものを持ちましてお話の
おきになった点とそれから、農村技術指導という面も
加えまして、このような場を持つておるわけでございします。
このような機会に對しまして、相互の助成を以ていきな
いという考え方でございします。

次の防除の関係でここでは、松毛虫ということでは計画は

でございますけれども、当然、相対値する問題でございます。まず、お話し点も合わせて、対策を講じていきたいと思います。という考え方をいたします。

・社会教育課長(利田正男君) 図書館の改修費について申し上げます。七十八万円というのは、電気の改修工事だけでございます。片指摘の大きな修理に關しては、執行部と相談中でございます。なるべく、早い機会に根本的な対策を立てなければならぬ。そういうふうなことで、新年度当初には盛ってございせん。

図書購入費でございますが、五十五万円は、前年より、十万まゝでございまして、基本図書である諸法規類を、今年は主として購入いたしたい。こう考えた予算でございます。

この購入方法は、図書館運営委員で基本方針を定め

ていただきます。司書が二人でございますので、教育長の合議
決済、そういう形で購入を進めます。

それから利用状況でございますが、三十七年度分の統計がで
きておりますが、館内、利用者、二千二十人、館外、利用
者が八万四千六百九十人でございます。

・三二番(三沢節君) 第一点、農村青年グループ育成費でござ
います。私が見た場合に、現実にグループ活動を行な
っているところがございます。そういうようなグループも
これは入っておるか。この点がわかりませんので、という
ところに出ておるか。ということも教えていただきたいと思います。
います。

次に図書館の修理でございますが、一つは、館山市
の図書館でございます。危険を十分知りつつ、お
さない。もし事故があった場合にどうも仕方がありません。

早急に市長さんとして修理をする意思が、おありかどうかを確かめたいと思います。

国書を購入する件につきましては、一般市民の希望する国書を受け入れているかどうか。この点とさらに農村地帯にどの程度利用されているか。もうもう少しといふならば、移動図書館を開設して、農閑期等十人利用させる意思があるか。

・市長（本間譲君）国書館の修繕につきましてお答えいたします。

これは私も見まわっておつゝある通り、非常にこわいております。なかなか安い金では、できないのが現状でございます。これにつきまして、買収当時、あれは千五百万円で十カ年賦で吉田市長さんうのときに買ったわけですね。まだ三回ばかり残っております。銀行に交渉して買けてもらうとい

うことで銀行に対して、要望書を出したんですが、私千葉にいきまゝて、重役と会いまゝて、よく頼んだんです。

登記してしまつていまさらいう筋合ではないけれども、館山市も財政が貧弱だから、ぜひ助けてもらいたいということとて頼んだんですが、相談するということであつた。

回答が参つたんですが、百万円でかんべんしてもらいたい。百万円寄付をしますというふうなことです。それにまゝしてそれをえとて修繕したいというふうに考えております。社会教育課長(利田正男君)農村関係の利用者は私どもの方に十分類いたしました中で第七位利用度が非常に少ない。六二%九という形になっております。

市指摘の面につきまゝては、ひかり号の委託にまゝして各地区に移動図書館を市利用いただいておるのでございすが、十分に市利用いただかない面は、そのむきにお

これえしいと思ひます。

館内には読者の声を吐露していただくようなわづらうになつております。ひかり号にもそういう形が取られておりますので十分そうした面も反映することができかと思ひます。

。農産統計課長（伊藤孝太郎君）　この助成につきましては半額の三万が果のひも付きになつておるわけで三十八年度は重点としてある一定のグループに對してということできてあるわけでございしますけれども、三十九年度におきましてもこれをえとして、予算案を作つたわけでございします。他にも真剣なグループに對しましては、当然考へるべき問題というふうに考へております。

・三二番（三沢菊君）　ただ今、課長さんより答弁了解いたします。

なお図書館の修理は市長さん、市努力十分了といったします。できるだけ早い機会に修理を完成していただきたいと思ひます。

○一六番(前武夫君)三点お尋ねーたいと思ひます。

ハニページ消防費と節賃金で十五万円、整備工場、取買等、賃金こう出ております。

整備工場ができますと、常設消防の車両ばかりでなく市の各種の車両、分団の消防車の修理、そういった面を一切この工場で無料で行っていただけたらうと想像します。そう考えてよろしゅうございますか、それが第一、大五ページ先ほど質問になりました、松くい虫の防除、件でございますが、海岸といわず、山といわず、房州の山、松が赤くなっております。こゝまき、捨てておきますと、将来松と云うものがほとんどなくなり、一ないかと素人は考える

位ひどくなっております。

五万月程度の金ではほんすいいわけ的な仕事ーかやいな
いわけでありまして、この際、もっと思い切った額を果なごに
相俟てて投入してこの防除に当るような考えがないかどうか
お尋ねいたします。

第三点、三五ページ事務改善に關して秘書課長さん
にお尋ねいたします。

事務改善に關する経費が八百五十万ばかり計上されて
おります。事務改善につきましては、執行部の皆さん
が非常な熱意と誠意を持って改善していらっしゃるこ
とに対して私も本当に敬意を表する次第であります。

従いまして昨年かど本年度にわけて、いろいろ機械、器
具購入、予算などがあつて、ほとんどそれかどういふ
うに使われるのか、というふうにやまやまということもあ

尋ねないで自給委任的におまかせしてやつていただいておりますわけです。失礼で課の統廃分につきましても、一切、原案通りおまかせなわけで、私ども、この結果について非常に期待を持っておりますわけでございます。

ところが私最近思いついたことです。アンド事務所からいろいろなものを買っておるわけですがアンド工業というものは、アイデアを売るところでないかと私考え込んでおります。アイデアを売るものが三分位に考えておったんですが、どうも、ものを売る方が七分位でアイデアが付随してゐるような気がする。やはり機械や器具を売るのが、商売の会社ではないかという気がするんですが、従つてこの機械などはアンド事務所からお買いになつて思ひます。こゝで使う用款類なんかも、張の買とか、厚さなどで機械を取り扱つてゐるところから買わないと使ひものにならな

ような機械もたくさんあるのですが、どんなものを買
場合でもできるだけ市内の業者から買ってほしいとい
うが、我々の希望にわけですが、この八百四十万円うち
アンド事務所からという位お使いになる予定ですが、そ
点を伺いたいと思います。

それと、いろいろ理屈通しにくい場合が出てきはないか
と思う。理論的にはこうだけれども、実際に不便である
という点が出てきはないかと思えますが、そういうときに
今後どう課で管理し、推進していくかわかりませんが、あ
まりメンツにこだわらなくて、なおすところは、遠慮なく
なおして、市民に便利、いいように市民へサービスを念
願としてやっていただきたいと思えますが、こういう点につ
いての秘書課長さんへ構えうほどを承わりたいと思
います。

助役(小出武男君)第一点についてお答え申し上げます。

これは先般、消防署がでるのと同時にガソリンの統一をやりまいなと同様に市有の自動車これを全部やるようにしたいと思っています。

市参考までに申し上げますと、ガソリンを統一しまいなために今までも使用量をもつて計算すると、年間四十万位の利益が出るという計算が出ております。さらに今後自動車をやりますと、前年度の数ははつきりわかりませんが相当数になると思っています。初めから全部というわけに参りませんが、徐々に市有のものについては、及ぼしていきたい。かように考えております。

農産統計課長(伊藤幸太郎君)ここにございます五万円の予算、関係はお話のように非常に大きな問題になつております。防除対策に対します組織をはつきり作

りまして、そうして組織と元になります。できるだけの対策を講じて参りたいという組織へは五万円でございます。あと若干ではございますけれども、事業費の消耗品等で薬品費等若干のものを盛っております。

ただ、これだけで十分とはいえないと思っております。であります。ただ今、渠の方でも非常にこの問題は力を入れてあります。して、福日も約五日間にわたりまして、農林事務所と私の方々係と市内を重点的に被害の調査を実施いたしてあります。その調査を持ち寄りまして、渠ともこの問題を検討して参りたいというふうな段取りを付けてございます。かような意味合いでございます。で、この問題は十分今後手を尽くして参りたい。このように考えております。

秘書課長(小倉隆男君)お答えいたします。アンドカードで

購入する機械関係の総額は約七百四十万でございます。

これは、三十八年度の予算で三百万程度をお願いいたしまして、それが、それも含めまして、総額で七百四十万程度の機械を購入いたします。

そういう機械関係の総額が九百四十万位、その他うものは、例えて申しますならば、電動加算機、これは、大体、百万円、オリベツティの加算機でございます。これは、イタリア製だそうでございます。これは、やはり、アンド・カード・システムに、よるものでございます。

この種の種類がオリベツティのほかに二種類位あるそうですが、これは、つきまゝでは、私たちが方々の業着を調査いたしまして、結果、オリベツティという機械が一番いいということで、購入いたします。

その他タイプライターとか、小型自動車とか、そういうようなものを含めまして、総額、機械器具購入費が九百

四十万でございます。

それから先ほど申しましたようにアンド・カードのアイデアを売ることだけではございません。

それから、諸用紙が規制されるのではないかということでございますが、それはエスターという機械のせきする用紙だけは、機械につくために規定の用紙を使いますが、一、市で買わなくてもよろしい。現在るところ、エスターを当分アンドカードのものを借用いたしまして、これは佐民に通知をする業務納税令書、納税告知書、国民年金の保険証、選挙人名簿、入学児童の簿令簿、あらゆるものが、このエスターによって短期間に刷り出されるという機械でございます。その他事務改善で百万冊位の諸用紙、大体三十五万枚のカードと諸届出用紙も市内の業者に発注いたしましてやっております次第であります。

ただ特別なものだけは買いました。

それから四月以降のことですが、二ヶ月前に、執行に乘せた場合にスムーズに動くか、よかつたものか悪かつたものかということについて現在のところわかりません。
一か二かには、各市の前例等も採用いたしております。
一か二か。その後においても多少の無理がある程度考えられます。
そこで、その場合、だんだん新しい適當な方法にやりたい。
秘書課に事務改善係を設け、進めて、その後もういろいろ検討していただきます。

事務改善審議委員会、事務改善事務局をそのまま存続いたしまして、今後、運営については十分検討していきます。
たゞ、このように考えております。

二番(西村真次君) 観望の關係で二二と伺いたいと思います。

セロページ 十七節、公有財産購入費といたいまゝで四百
万円計上されております。又説明によりますと、西御地
区、道路沿線の土地を購入されるということのようでご
ざいます。その地区、地積購入した土地を何にお使いに
なるか、それにつきましてお伺いいたしたいと思ひます。

もう一点は、通告質問においてお伺いいたしまゝに城山展望
台の件でございます。果で計画されておるわけでありませ
うが、この市の構想として、天守閣型の展望台にて、資
料館、或いは郷土館というふうなものを併設するお考
えがないかどうか。この点をお伺いしたわけでございますが、こ
れに対する中答がまことにあのまゝいふこととしておりまゝで
その意思がなおそれくないように解釈されますけれども、
もう一度はつきりとその点をお伺いいたしたいと思ひます。

・観光課長（小沢正治君）お答えいたします。この四百万円の土地

購入の計画は休暇村地区でございす。

三十九年度におきましても引き続き、国定公園事業といた
し、大体千三百万乃至五百万円程度のもうが、予
定をやる見込みでございす。

それに、関連し、まゝ市が今年、事業計画につきまゝして、土
地の権利を確保する、というのが、当初から、厚生省
の方針でも、まゝわけでございすので、それに、ついで、まだ、決ま
りて、おりませんけれども、決定し、まゝ、入っても、どうやと、思
い、まゝして、事前に、でき、ければ、やはり、必要性が、あろう、という、こと
で、ござい、まゝして、千三百万、を、予定、いた、り、て、おり、まゝす。

市長（本間譲君）展望台につきまゝして、お答えします。これは、
単なる展望台として、造るものでございす。郷土館は、
今後の問題でございす。が、城山の南麓について、この間、お
話、申し上げ、まゝ、た、漏、れ、り、今後、構想図があるのです。が、

それで進むことで一応考えておきますが、それにすぎないと、
現在幼稚園のあるところの裏の低いところに郷土館を建
てようという方針でございます。

二番（西村真次君）第一点につきましては了解いたします。

ただ、さうも申し上げましたように、観光費が総額で九百
万、その半額に近い費用を出して土地を求めるわけでござ
いますので、十分その点に重きを置かれますと、有義義に
使用していただきたいと思っております。

第二点につきましては、やはり意見がないとおっしゃることも了解
いたします。

展望台は、結局果々費用だけで作られる。その他は、す
まぬ要するものは公園の整備費だけということでした。解
してよろしいわけでございます。

市長（本間譲君）展望台も市で約三分の一は出すわけでは

二八番(西村真次君)了解いたします。ただもう一つ、これに關連いたして聞いて聞くと、ところによりますと、地元の観光協会であるが、はつきりいたしません。何か一般に寄付を求めておる。それも相当高額の寄付を集めていらっしゃることを聞いておりますけれども、これに關して市の方で、そういった指導をされてゐる事実があるかどうか。指導とまでいかなくても、何だが、示唆された経過が、あるかどうか。この点、伺つておきます。

市長(本間謙君)市として、は、つづいて何か一本づつ位、寄付願つたらどうか、ということ、最初に申し上げました。それが結局、金でということになつたのではないかと思ひます。

二八番(西村真次君)私は寄付の内容、その他詳細はまだ了解してはおりませんが、一カー、公園の整備ということ、これは市で行なうべきことだと思つてあります。一家庭つづいて

一本程度のことであれば、これはやむを得ないと思っています。が、高額な寄付が集められるということになると、かなり影響が大きい。また問題を引き起こす。かように考えますので、あえて質問いたしなわけでございますが、さうなことがないとするは結構でございます。了解いたします。

・二四番(島野茂樹都君)と四ページ十八節備品購入費六万七千円が計上されておりますけれども、現在人夫等非常に集まりが悪いという中で、道路補修工事のため、機械化・大型化のため、ブルドーザーというような、工事能率の機械、登真(とうま)というものを購入する必要があるところはないでしょうか。我々考えた場合に、少くとも、当市のような場合は、一台位ブルドーザーを持たなければならぬ、では、ないかと考えます。この必要性の有無、もしあるとするは、どういう計画があるのか、この二点について伺いたい。

・建設課長(新井重助君)お答えいたします。土木事業にブルト
ーザーが必要ではないかというお話ですが、私もブルトーザ
ーの使用の範囲も考えております。あつは大量の砂を取
り出す場合に使われまして狭いところの維持補修には
あまり使用しないというふうに考えます。最近人夫も少
なくなってきた。一応機械化ということも考えておりますが、
こつ六万七千坪は、くわとか、小さな道具で購入費でど
こいます。幅員の広い道路ができた場合に考えていま
ない。それよりもさかんに舗装の方も叫ばれておりますので
一年か二年の間に舗装の現在の方法をかえていきたい
ブルトーザーの方は考えておりません。

・議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午後 三時四十四分

休憩

午後 四時 〇五分

再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

三九番(鈴木市蔵君)教育長さんにお伺いしてみたいと思います。
館山市の教育予算が小・中学校でもって七千七百万とい
う予算に対して館山高等学校が六千万円、ばかりに義務
教育の予算が高等学校の方が一億四千七百万円に考
えるんですが、去年の当初予算の際に絶対一億は必要
という教育長さんや市会の方でございまして、一年みると
現に一億は必要がある。県立移管の問題があるから、こ
ういう予算をきかせておもうだというふうに聞き込んで
おるんですが、本年度あたりは、館山市の子供が館山
高校に入学を希望してその選からはずれたというふう
に聞いている。これは、私は去年もいった通り、いくら考

でも考えても考えきらない。なぜかといひますと、こゝ子供
の父兄の皆さん方は、全部が市民税というものを払っている。
その市民税を払っている家庭。子供が落ちて市民税を
払わない郡部。生徒が入っているといふことは、どうしても
考えられない問題だと私は解釈するもうでございします。
ただ、高校に入學しても、一緒についていかれない点数が
あると思ふんですが、その子供はいざ知らず、ある程度
点数を取ったら当然入れてもいいと思ふのであります。
どうしても、郡部と館山市を公平に見なければならぬ
という根拠はどこにあるか。それから、これは、うわさでござ
いますけれども、試験が終わってから、町村長あちがぎ
てもう一處教室増という問題を陳情してあるそうです
が、これは事実かどうか、これが一つ。

それからもう一つは、来年度の予算で郡部で五十万の寄

付が館山市にもらえるようになっておるんですが、この受け入れがどうなっているか、これも伺いたいと思います。

・教育長（工藤和平君）お答えいたします。

第一点は採用方法でございますが、この点は実は私の権限外の問題だと思つております。私も教育委員会は、入学試験に対する権限というものは、期日をきめたり受付けいつからで、そろそろ発表がいつだ、こういうものは、当然教育委員会決定すべきものでございます。これは、果て教育委員会も同様でございます。

一か一かどう、というふうに取りかかっている問題に關しては、これは、学校長、権限と解釈しております。そこで公平にやうねばならぬという根拠はどこにあるかというお話をさせていただきますが、この採用に關しては、基本的に公平にやうべきだと思いますが、館山市立の高等学校であるが故に

私は優先的とは申しませんが、カー・考慮に入れて
ほしいということは指導、助言をしてござります。たびたび
従いまして結果論から申し上げますが、今年の結果におき
ましては相当多数が不合格がออกมาたが、カーも、その不合
格の多くが市出身者であるということも事実でござ
います。カー・これにつきましても、何と申しますか、中学校
側、進路指導の一つ、傾きがよろうに思ふわけござい
ます。

果立学校、志願者が定員オーバーが著しく少ない。ここに
館山高校に対すカー・ゆゑがあるかと思ひます。カーも
今度、試験の直後に校長を呼びまして、いろいろ実情
を聞いたのでありますが、校長としては、相当考えると。
カー・いゝかんせん、七百点で二百点、百点台のものが、
相当市内のもうで占められてゐる。

大量に志願する一中、二中のときは、入学率が六〇%と七〇%のいはちうと考えらうないわけだと思ひます。

同ドラインにきこいた場合に市の出身者に対しては、相当考慮をはらうべきが当然だと私自身、やはり考へておきます。

次の陳情でございますが、十日でございます。富浦町長並びに三芳町村長が、郡市の町村会長という形で、陳情書も市長宛教育委員長宛に持ってきたことは、事実でございます。

第四点、郡が五千万円というところ、商業課程を前年、今年度に限つて一学級増そうということにからんで、寄付だったと思ひます。この金を寄付するからという条件のもとに、私も私どもは、実は認めないわけでございます。だが、結果的には、工業課程の寄付金が千四百万円の中

に食まいるような結果になっております。従いまゝ五十万円
のその当時の寄付として金の納入を止めていないわけでご
ざいます。

。二九番（鈴木市蔵君）私がいわんとするところはそんなです。
是年一学級増にして千円、一かも五十万円を寄付する
というペテンにかけています。ペテンを付けている郡部の子
供だが、それを公平に扱うことはどうしても考えられない。
現在、館山高校は館山市民の市民税において課税
している。

館山市民の子供が落ちるということは、私は重大問題
だと思ふ。郡部の方々が市に一銭の市民税も納
めていない。これを公平に扱うことが、私はどうしても考
えられない。

教育長さんがどうの答弁の中にあるところでは優先的

に全部入らう、分数ができない子供があったという
ことを聞いた。あまり下では当然考えられる問題で
あって、入る程度の子供がいても、郡部からきた子
供が点数がすけえばその子供に取らせなくて、その人
たちが、こむけえば、当然入る子供たちがみな落ちて
しまふ。市長さんも二回、当初予算を組んだわ
けで一学級位の子算は、七億の当初予算だから
どこをぼろくつても出てくると思う。私はこゝ點は
おそろく来年も問題があると思う。

県に移管するにしても、今年あたり一学級増にしておけば、来年少供が県立の学校に入っていけるという考え方もあると思う。一学級増にするとやゝむいとか、いう問題があるそうですが、もしも一学級増にしたら場合に新たな入学通知を出すと思うんですけども、優先

的に鎌山市の子供を入學させてもらいたい。これを早くぐ
いもお願ひいたしまして質問を致します。

○一番(辻田実君)三番ほど質問いたしたいと思うんですが、そ
の前に議事運営のことについて議長さんにも伺ひいた
いと思います。

きのうもきょうも教育問題に対しては質問が非常に活
発に出ていますのでございます。

私は教育委員長というものを調べて見ましたが、教育委員
会を代表するのは教育委員長というのであつて教育長は
権限はない。今やそんなものについては教育委員長が答
弁にたつが必要ではないかと思ひます。責任ある回答
ということになると、教育委員長が代表すべきであつて、そ
うに配慮願ふように要望いたしたいと思ひます。

議長(黒川佐太郎君)その問題は議会の要請があれば議

場に委員長は出てもらうことはできます。議長が要請

した場合です。

一〇番(辻田実君)自治法は出席できることになっておると思
いますから当然であると思います。

議事や運営で教育長と質問の内容に非常に教育委
員会法と出過ぎた討論がある中でその面では見苦しい
討論が多いようでございまして、これは今というわけでは
ございせんが、教育委員長が出席を要請していただ
きたいことを要望しておきたいわけでもございます。

議長(黒川佐太郎君)横例によりましてこうやってありますが
ごもっともでございします。

一〇番(辻田実君)四五ページ、社会福祉業務費の中におさま
して、十九節、負担金の中に当然の組み入れなければ
ならないと思っておりますところ、被爆者に対する

ところで補助金というんですか。以前の議会におきまして追加でもって計上されておったんですが、今年度予算にないかどうか、その点について伺いたいわけでございます。もう一つは五九ページに関連するわけでございます。けれども、館山勤労者文化厚生福利施設委託料大分計上されておるわけでございますが、この点につきまして最近労働者団体にきまして、日本住宅公団の方から指示がありまして五十戸程度の住宅を建てたいというふうな話が出ておるわけでございますけれども、それに対する経費は、この中から当然おきかておると思いますが、一かーながら、市の方で団地がそういうふうなものである場合に道路とか、側溝とか、下水等が必要なわけで、そういう経費があと七三ページ、七五ページの上木費の中に見受けられない。そういうもので、勤労者

厚生費の中に含んでいくとできない。従いまして、そういう話ばかり具体的に進んでいる中において、どう処置するかという点についてお伺いいたします。

もう一点は六八ページの商工会議所に対する助成金、商工振興費の十九節、負担金補助、及び交付金という中におきまして、やはり商工会議所はドめ、いろいろな協議会に対して補助金が組まれているわけでございますけれども、市長さんのお話の中に企業誘致ということが言われておりまして、メリヤス工場がくるということも言われておりまして、そういう工場が参りますと、水も必要だし、水道を引いたり、水を流す下水がないところに工場を誘致した場合に、館山市にそういう施設がないので、由をつぶす、原野をつぶすということになれば、相当の工事をしなければならぬ。そういうものがなければ、企業

誘致が不可能というふうに見ておるんですが、それも負担金
交付金の中にも入っておらないだろうと思ひます。こゝが、
道路新設並びに改良費等の六百七十万、さらに維持
費の千四百万円があります。そういう要望にこたえら
うとするが、組まねておるのかどうか、その點についてお伺いいた
いわけでございます。

・厚生課長(吉田新一君)お答え申し上げます。五四ページの社会
福祉、総務費関係の負担金補助及び交付金に被爆者
の助成が計上されてないという点指摘でございます。確
かにそうしておりますので、今回予算方式の改正に
伴ひまして従来、厚生課の被爆者の方で追加をお願い
したわけでございますが、今回福祉事務所の方にわり
きりで、私も不徹底と思ひますが、確かに落ちていま
すので、市長さんや意図をくんで今後計上されていた

だいたい、このように考えております。

・建設課長(新井重助君)お答え申し上げます。田地造成でございますが、田地というものは、私ども市営住宅を依りまして、も田地の中、道路は施行者が負担することになっております。それから、ある水等については、そうときに考慮していき、たいやうに考えております。現在、予算の中には、そういうものは含まれておりません。

・三番(菊井敏博君)学校用地、小、中、高、幼稚園、保育園、百四十万出ております。

これは、どうなる事情で、どう学校が、どう位、坪数など、これから借りておるか、教えていただきたい。これに対して、今後、どうなる方針を取っていくか、ということも合わせて、お聞きしたいと思っております。

四五ページ、社会福祉施設費に、配と相談所がござ

います。これはどの程度権限があるのか、教えていただきた
いと思ひます。

・福祉事務所長（鶴沢貴寛君）に配々と相談所は現在公
民館に事務所を置き、毎週水曜日は民生委員、
弁護士の方、そういう人を委嘱いたしまして、相談にた
とておるわけでございます。これに対する費用といいたし
まして、十二万円半額集う補助を受けておるわけでござ
います。料金はただでございます。

・庶務課長（千場伊右エ内君）学校用地の關係でございますが、
現在総坪数が九万三千五百六十坪でございますが、そのうち
市で所有してあるものが七万六千九百三十六坪、私のもつを
借りてあるものが一万八百八十七坪、それから国有地が五千七
百三十六坪、私有地ですが、これを借りておりますのは、餘
二高校、二中、那古小学校、神戸小、東小、神奈小、九重

小・糸糸幼稚園、公民館、郡古分館以上のようになつて
あります。

・三番(菊井敏博君)確認する意味でもう一度お聞きいたし
ます。先ほど今度の建物は鉄筋コンクリートで作る
というものに対して、その土地を今後どうしようにしてい
くか、なお心配ごと相談所、權威、どう程度の権限があるか
ということが知りたい。

・福祉事務所長(鶴沢貴寛君)権限は別にございます。

・教育長(工藤和平君)市費向の鉄筋化の場合に私有地をどう
するおということをございます。これはやはり話し合
ひをして決定する以外にはないと思ひますので、できるだけ予
算、その他とくらひ合わせて月満にことが運ばるよう
に努力いたしたいと思ひます。

・二七番(嶋田繁君)二二点、簡単に質問いたしたいと思ひ

すが、その前に先日どしどし議員から見え苦しい云々という言葉がありまして、これは教育長と質問、応答、いついそさしたことのかわりません、私も今結り合った一人ですが、その言葉は果してどうですか、教育というものは、非常に力を入れます、真剣度が重なりますと、言葉が悪くなることもあります、果してこれをもって見え苦しいというのですか、それと議員の発言に対しては、批判的なことは、できまいというふうな私は、何らかのやりとりどころがあったと見ております。

よーんは、なぐとも、議員の発言に対しては、同僚として、そういう見え苦しいとか、何とかいうふうなことは、果して将来のためにどうか、こういうふうに考えますので、これをみて最初に申しておきます。

質問に移ります。

第一点は、四款の清掃費。二目、塵芥処理費でございます。これは焼却炉が出来ますということは、本當に町をきれいにするということから、結構なことでございます。早くできてーかゝるべきである。そこで、市街地は清掃夫というものがございまして、集めて焼却する。これは非常にいい方法でございます。ただ、旧大カ村あたりについてみますと、若いところがございます。これは、自分ところまいうちはどうかと思ひますが、私は実情をお話しますが、富崎あたりは非常に地域が狭いので、どこも捨てる場所がない。そこで海岸に持っていて捨てる。少女が若い風が吹くとしてきて、始末に困る。これは富崎だけではございせん。ほかの地域もあることではございませう。そういう実情をよく中實になつて作ってもらいたい。こう考えます。こゝろえてもいいという気持ちがあるものでせうか。

それと一点、それからもう一つ、負担金補助が大ニバージに多い
ーかも二万とか、三万とかいうものがかなり多くございます。が、
これで果して効果を増しておるかということは課長お知りな
く調べて承知しておりますが、私は補助そのものはいいな
いというのではない。二、三細かく分散してまいりますと、効果
が全然なくなってしまうのではないかと思ひますから、猶當世
方々と話し合ひをなさって、重点的にもう少ー役に立つ
ようにやってみようか。私はこう考えるものです。その点をお
尋ねいたします。以上二点です。

・厚生課長（吉田耕一君）お答え申し上げます。市指摘の市
街地を中心としたものでなく、現在は、少うて密集集
地域も市内に相当あるわけで、そういう地域に対する
収集方法という点も検討しておるわけでござります。
一部の地域からは少うたお話も伺って相談に応じて

おるわけでございますが、今後完全な収集まで行こうと
いうふうな考えを持っておるわけでございます。それに合
わせまして焼却炉の問題でございますが、私も考え
ますのに、その地域状況に応じた焼却炉を作るというこ
とは、効果が薄いというように研究の結果考えたわけで
でございます。せつかく作るものであれば、一カ所に大きな
ものによって完全焼却をな方がいいうのだというふうな考
え方を持っておるわけでございます。市内に数カ所という
ふうな考え方は、現在持っておりません。

・農産統計課長（伊藤幸太郎君）農林の関係でございますが、
市指摘通り非常に数が多くございます。ごつくばらん
に申し上げますと、この中に言葉は悪うございますけれど
も、おつき合いうような面々補助金もございます。一か
なばら、多少なりとも、効果をしていくということについては

十分考慮してゐて参りたいと思つたわけでございます。

この結果についてでございます。一つ一つ回つてみたりは、ゐつてありませんが、ある程度の実績と申します。そのういつた点は私なりにつかんでおるつもりでございます。でありますので、今後、問題として、できるだけ整備はして参りたい。一か一かながら、今お話ししたとおり、おつきあひのうな面も確かにございますので、これを全般的に今どうするということでは、将来、問題として考えていきたい。このように考えております。

一、番(廿廿美君)ただ今、鴻田議員の私の言葉に失言があつたといふたことでございまして、まあ、まあ、見苦しいという言葉が出まゝな点につきましては、ほかうもつといふ言葉に改めなければならぬといふ点について申しわけないと思つております。一か一かながら、私は趣旨の上において、議員に對

して見苦しいというふうなことは申し上げておりませんので、その面についてはやはり承願したいと思ひます。

先ほど申してありますように教育委員会を代表するものは教育委員長であつて教育長が答弁しておるので教育長の答弁が見苦しいような答弁が見受けらるゝので教育委員長もあつてもらいたいということとさういふわけで私は議員に付てはいつたつもりはない。会議録にもさういふふうのつておると思ひますので見苦しいという言葉に対してはさういうふうにやはり承願したいと思ひます。

・一番(吉田勇治郎君)議会運営についてお尋ねするものは大抵でございますが、今昨日議員の発言はごもつともと考へます。ということは地方自治法、教育行政、組織及び運営に關する云々という中より十二條の三項によるやり発言だと解釈するものでありますが一か一私に現在まで

どうであつたかということと適合いたしまして、第四条の規定によりまして、私はあえてさうつかえなひと思ひますが、その点議長う解釈はいかゞですか。

議長(黒川佐太郎君)暫時休憩いたします。

午後四時五十二分

休憩

午後五時

再開

議長(黒川佐太郎君)休憩前に引き続き会議を開きます。

ニ七番(鳩田繁君)私もここで申し上げておきますが、先ほど

私が廿七議員に申しわけなかつたんですが、廿七議員も

ちよつとまづかつたというやうな意思表示もありました。

なお、お聞きしてみると、発言も批判したというやうな気持ち

からではないことがはつきりいたしました。この点了解いた

しました。これで打ち切りたいと思ひます。

○三五番(藤生田七郎君)一〇ページのあります。人件費の由
題でございますが、二億三千八百六十八万二千円という
人件費が計上されたわけであります。その中には各種
の手当も含まれてある。一かも、なお超勤手当等を正
式に出しますれば、これをオーバーする額になるのだ。こう
いうや説明のようでございますが、経費規模を大体同じ
くすると、市に比較して、人件費というものが、か
なり膨大な額になっておるんですが、これは、出さねばならな
い必要経費であります。他との比較をなしたか、どうい
ます。その点をお伺いしたい。一つ、二つは事務改善等
によりまして、能率の増進をはかるわけでありするが、
当局の苦いもよくわかるのであります。

一、かし、人件費の比率が三割六分という%を占めてある。

こういう姿ばかり仕事と人件費のために圧迫しておると
いうことがいい得る。そこでこの点につきましては市長さんに
教えてもらいたいんですが、今後こういう必要経費を出す
ということと仕事をやるということ、市勢の発展を期す
ということ、二つには人事が若がえりによる増進、勤務
という精神の高揚、こういう面について市政に対して、
意欲の向上を期さなければならぬ。非常にむづかしい問
題でありまして、この問題に対して市長さんはどう思
うていくのか、むしろ教えていただきたいと思つてです。以上
。助役（小出武男君）私から若干系数的に参考のために申
上げたいと思つてます。

人件費は三十七年度が三四・五% 三十八年度が三八・
三%、三十九年度が三六%というものが、予算に対する
比率でございます。

一応全国五万乃至十万人都市の平均を見ますと人
 件費を含めます大体物指しといたことで、經常
 充当額、今申します人件費、その他、運営費、仕
 事以外の費用です。二と一般財源との比率を一
 応自治省あたりでは見当にいうのでございますが、これが
 七〇％位が適當なところだ。こういうことにならねてあり
 ますが、前年度の予算を見ますと、当市は經常充
 当は六千八百余万円、一般財源が三億八千八百万円、
 その比率は六六・五％ということでございます。大体そ
 ういう構想からいいますれば、標準といつていいというふう
 私ども考えるわけでございます。ただ人件費につきま
 して若干上回つておるというものが現況でございます。従いま
 して私どもとしましては、現歳入が足りない、税外歳入が足りない
 ということにおいて人件費というバランスがくずれてくるという

結果を生んでいることと思います。人件費必らずしも高いとは申しませんが、こういうアンバランスによって比率が上昇してくるということでもございまして、今後の考えといたしましては、やはり歳入財源の増加を極度にはかるということが第一点としていわれることと思います。

人件費の増嵩は、取員の給料でございしますので、ベースアップ、その他関係で現員をかかえている以上は、ある程度抑制できない点でございます。——かゝる無為な人件費

の増嵩は、当然抑制すべきものだろうと思っております。ただ今、行われておるような事務改善、機構改革ということも、そういう点に若干の目標を持っておるわけでもございます。今、申しますように、そういうアンバランスをなおすためには、できるだけ歳入の増をはかっていく。バランスを保ちたいというのが、私どもも考えている点でございます。

・二五番(萩生田七郎君)ただ今の助役さんの答弁で了解いたしました。市長さんも、そうした中、答弁内容と想像します。で、改めて承りませんが、これはなかなかむづかしい問題でございましょうが、積極的な中、配慮をたまわればいいのではないかと、教えていただいてありがとうございます。

・二一番(江田徳太郎君)私は五五ページの焼却炉土地購入費から伺います。ただ今、課長さんから、いろいろ伺います。土地購入費として、百万円の予算が出ておるようですが、これについて、昨日も西村議員から質問がございまして、国有地の払い下げというふうなことでなまなく私はそういう面から行なってもらいたいと思うものであります。西村議員から、坪数等伺いますが、市の方でもう一回お調べになつていただきたい。大体わかつておりますが、もう一度お伺いしたいと思っております。

次に六九ページ商工費で鉄工業振興助成金ということが
っております。これは今までになかったと私は思っておりますが
この内容についてお伺いしたいと思います。

それからもう一つ六九ページ土木費に關連して今回の改革に
よりまして土木課と建築課ができるようになっております
そうしますと予算面で建築課に与えられます事業、ど
ういうふうに区分がなされるか、この点についてお伺いいた
いと思ひます。

厚生課長(吉田耕一君) 第一点につきましてお答え申し上げます。
答弁が中實向に合うかどうかわかりませんが、私が伺った範
囲においてお答え申し上げたいと思ひます。

焼却炉の設置でございますが私どももできれば、國有
地、果有地、ソーナ面に向けようという考えを持ってお
ります。焼却炉の設置に適するかどうかというふうな

と十分考慮いたしまして大体考えております点は、市
有地の適当な地域というものを中心に現在検討を進
めてゐるわけでございまして、もう一層検討の課程におき
まして適当な地域があるとするは、できてきただけ手に入
りて建設といふのでござい、このように考えております。

・商工水産課長(長谷川広治君)鉄工業振興関係について、市
説明申上げます。

これは本年度新たに計上いたしたものでございます。

鉄工業と申すと、大へんおあげさになります。市内に

四十三カ所に鉄工所等があるわけですが、大体下請を

中心にいろいろ作業が行われてゐるわけでございます。

その下請が親会社で設備の近代化に伴ひまして、どん

製作過程が違つてくる。こういうふうな関係から、地元の

部を借りまして技術的な講習をいたしたい。こういうこと

を業者が考えておりますので、それに合わせまして若干の補助をいたしたい。かように考えて計上いたしました。

秘書課長(小倉登男君)土木課と建築課の分担ということでございますが、おまゝかに申しまして、土木課は土木行政都市計画行政でございます。建築課は建築行政大別いたしまして、こういうことになります。

予算書で概略の説明いたしますと、土木費の中の道路橋梁費、道路新設改良費、橋梁維持費、港湾費、都市計画は土木課の分野でございます。住宅費、住宅建設費、これは建築課の分野でございます。建築課は学校その他各款に分かれております。建築行政を全般的に建築課でまとめるといふことでございます。二番(江田徳太郎君)第一点の焼却炉の問題でございますが、今、しゅう地とお説がございまして、私有地ですか、市有

地ですが、お伺いしたいと思ひます。振興費の問題でござ

います。鉄工所といひますと、池貝にその中に入るかどうか、今、お話でございしますが、助成金で講習会を開くということなら、私納得でございしますが、どうもそうでなく、鉄工業に補助をすることになることと意味が違ふように思ふ。その点、もう一回第三点は了解いたしまして。

厚生課長(吉田耕一君)第一点にお答えいたします。館山市有地を中心に検討を加えております。

商工水産課長(長谷川広治君)鉄工関係の助成でございしますが、技術講習等を果と合同主催をいたしますので、すくなくとも、多少のものを組合を補助してやりたい。かように考えて計上したもので、形式的には組合を補助しますが、技術講習の費用の一部と考えていただきたいと思います。

二二番(君塚喜三君)第一点といたしまして、議案審議でござ

容器収集手数料料で六十円案を四十円に修正したいわけですが、従って歳入がかわるわけで、歳入の方を当然、変更があるべきではないかと思うんですが、その訂正がなされていぬのはどういふことか、これが第一点。

第二点といふところは、要望的の質問になるわけでございしますが、予算書作成に当たって昨年までは、構成比まで明示されておったのだが、これは検討する上にまことに望ましいことであるが、できたら、明示していただきたい。この点いかがです。

第三点といふところは、教えていただきたいのでございしますが、六九ページ十三節 中小企業従業員福祉対策委託金、この性格を教えていただきたい。ということとは三十八年度は中小企業従業員福祉対策補助金ということとで二万用計上されておった。今年度

は、中小企業従業員福祉対策委託金ということでは、三万五千円計上されてある。別個だったら問題ないんですが、同じだったら、特別性格の定義が変更されてあるのか、その点知りたいというでも願います。

第四点といつて、九二ページ、五節、工事請負費の中に、神奈川中学校のプールの建設工事費として、二百五十万、計上されてあるというときに、片説明を受けたように記憶がありますが、二百二十万寄付が入りますので、三十万の財源支出というふうなことになる。おまゝように思うわけですが、それはともかくといつて、ましてこのプール建設に関連いたつて、片質問を申し上げたいのであります。新聞紙上にずいぶんあった二中のプールの方はどのような結果になってあるものでございませうか、その報償でまことに意味深長なものであつた

ように記憶いたしてあります。が、その点、あまり詳しく発表でき
ないというところでございします。なら、概要でも結構でございします。
うで、答弁をいたさないと。以上、

・厚生課長(古田耕一君) 答え申し上げます。条例の運用によ
りまして提案の歳入面にひびきは、一〇いふという中、實地で
ございします。確かに六十月が四十月に比べ、二十月の差額
というものがあつたわけではございします。

私ども予算は大体十二月中に編成いたします。関係から
いたしまして、その当時は従来よりも、一応予算計上して
出して参つたわけなんです。が、その後三十八年度におきまして、
相当の効果も上つておる。だからまた一般の月に三回乃至
四回の収集ですら、も七十月だから六十月程度というもので、
その後におきまして検討を加えておつたわけではございします。
従いまして、そういう経過がありまして、最後の結論といつた

しましで、予算には失礼かと思ひますが、大体四十円程度を見込んであります。いろいろな意見見もあつたわけですが、一か一最後う決定として私も考えた六十円。その線であらうということでございます。

そう一表面から考えまして、なお、予定う七千世帯というものが完全に見えるかどうかという問題がまだあるわけでございます。そう一な二点を考えまして、予算はそれ前にお願ひしてあるうで、予算はそのままであつて、もし目標通りう世帯が確保できたとすれば、これが財源にしてもいいのではないかというふうな考え方があつた。こう一な二点にすぎまして、今回うような結果を生んだわけでございます。一応う承願えはとこう考えております。

。商工水産課長（長谷川広治君）中小企業と関係についてお答

えいたります。

行政内容といたしましては、昨年中意見書の通り、事業でございしますが、大体昨年までは補助金というふうなことで、その事業の主体を商工会議所に求めて、そうして市はその行事に対して一部を補助する。こういうことであつたんですが、中小企業者の市内経済界における立場と申しますか、従業員を考へまして、市としての責任と申しますか、そういう立場から、商工会議所と共催ということ、金額はわずかでありますが、本年度三万五千円ということに考へたわけでございします。

教育長（工藤和平君）二中全会のことについてお答えいたしたいと思ひます。

この問題につきましては、相当の期間を要しまして慎重に議したわけでございしますけれども、まだいろんな条件がそ

ありませんで当初予算には計上いたしませんでした。

●二番(君塚喜三君) 今二向を取り消します。ございまして、申しわけございませんでした。

ただ今ゴミの容器収集の答弁がこれは審議の際に予算に影響を持つので是非そうしてもういたいといったような要望も確かあったと思いますがところが修正されてしまった。その結果は修正でも何ら影響がない。この点どうもベテンにかけられたような気がします。その点もうサ―ッカリ―た片発言を願います。

ベテンにかけたんですね。(笑声) 今後そのようなことのないように、お願いいたします。

議長(黒川佐太郎君) 歳入の質疑はこれをもって打ち切り、歳入の質疑に入りたいと思いますが、片異議ありませんか。(「異議なし」と呼ぶ者あり)

議長(黒川佐太郎君)中異議なしと認めます。よつてこのように
決まりました。本日の会議はこゝにて延会といないます。
次回は三月十九日午前十時開会といひます。
本日に引き続き議案第五号乃至第十二号の質疑を
行ないます。

午後 五時三十三分 延会

本日の会議に付いた事件

一 議事日程に同じ

出席議員

吉田 勇治郎

小 柴 孝

館石 佐 蔵

田 中 祿 郎

秋山 六三郎

田 村 源 治 郎

望月照正

安西益男

仕田実

石井正

黒川佐太郎

菊井敏博

志村信作

小沢恵太郎

関武夫

西村真次

藤田好治

保科忠夫

江田徳太郎

君塚喜三

中村省吾

島野茂樹郎

萩生田七郎

鈴木孝

鳴田繁

山田教宇

鈴木市蔵

安藤竜吉

安沢徳順

三沢節

高橋文治

松本藤太郎

山口康

欠席議員

鈴木 正一郎

山本

昇

食口司諸令

二

